村上博輔日記抄　十一

自大正九年四月一日
至大正十年三月三十一日

大正九年

四月一日　木　雨　今日モ学生多ク訪ネ来リテ暇ナシ。（後略）

四月二日　金　曇少雨　（前略）十時ヨリ教師会議アリテ帰リシガ、（中略）小野〈善太郎〉氏甲府ヘ出発[1]ニツキ午前一寸同家ヲ訪ヒ、午後三宮ニ送リ歩シテ帰ル（後略）

四月四日　日　曇　礼拝堀〈峰橘〉氏ノ初説教[2]、〈J・C・C・〉ニュートン頻ニ誉メテ居タガ、筋凡ニシテ力ナシ。将来ウマクヤレルカ如何カ。多人数ヲ相手トナルト交際ダケデハ六ケ敷イ。（後略）

四月五日　月　雨　中学部入学試験。（後略）

四月七日　水　晴　（前略）試験係ノ相談会アリテ、一時頃マデカヽル。（中略）中学部ト徳島ト野球ヲヤッテ居ルノデ見テ（四対二勝）其カラ青谷ノ方ヲ廻リテ帰ル。（後略）

四月八日　木　晴　高等部入学試験[3]始ル。午後ヨリ採点、夜二時半マデカヽル。高垣氏来訪。（後略）

四月九日　金　晴　（前略）午前中学入学試験、午後拠り採点、夕ヨリ小沢〈濵〉氏ノ宅ニ於テ選抜、帰リテ二階ニ上ルトキ四時ノ時計鳴ル。（後略）

四月十日　土　晴　人物試験、雑用多シ。（後略）

四月十一日　日　晴　礼拝堀〈峰橘〉氏、与フル生涯[4]トイフ題ノハナシ。午後大岩〈元三郎〉氏宅ニテ入学試験成績判定。（後略）

四月十二日　月　晴　午前九時ヨリ教師会議、午後掲示。

四月十三日　火　晴　午前九時始業式。（後略）

四月十四日　水　晴　成績発表トイフ日、神学部講堂ニ往ク。時間割ノ変更アリテ業ナシ。

四月十五日　木　晴　入学式。神学部ニテ比較宗教ノ講義。鼻ト耳ノ加減悪ク困難ナリ。サレドモ内容面白キ学課ナレバ注意ヲ牽キタルガゴトシ。今日ハ気候急ニ冷ク、ソレニ種々ノツマラヌ用事デ午前徒ニ時ヲ費ス。（後略）

四月十六日　金　晴　今日ヨリ業アリトイフハ名義ニテ何モ角モ調ウテ居ラズ。毎年ノ事ナリ。午後九州学院ヨリ来レル生徒ノ入学試験ヲ行フ。其ヨリ川瀬〈書店〉ニ往キ、増鏡ノコトヲ談シ。（後略）

四月十七日　土　晴　神学部何レニカ遠足、業ナシ。（後略）

四月十八日　日　晴　礼拝松本〈益吉〉氏、現代日本ト基督教。（後略）

四月十九日　月　晴　（前略）学院一年生モ今日ヨリ来ル。

四月二十日　火　晴　夜〈H・W・〉アウターブリッヂ氏宅ニ於テ理事会委員（〈J・C・C・〉ニュートン、松本〈益吉〉、〈H・W・〉アウターブリッヂ）ト教授会委員（池田〈多助〉、佐藤〈清〉、予）ノ会見ヲスル。（後略）

四月二十一日　水　晴　始メテ邦文タイプライターヲ事務所デ見ル。尚改良ノ余地アルベシ。（後略）

四月二十四日　土　晴　中学部生徒会、〈村上〉槙三〈村上〉謙介夜ニ入リテ帰ル。午後（中略）志賀〈勝〉ノ下宿ヲ訪ウテ帰ル。

四月二十五日　日　晴　（前略）夕刻松本〈益吉〉氏暇乞ニ来ル。

四月二十六日　月　雨　午後湯ニ入リテ松本〈益吉〉氏ヲ訪フ。朝講堂ニ出席セヨトイフ趣意ニテ談ス。（後略）

四月二十八日　水　晴　迂ッカリシテ午後神学部ニ時間ノアッタノヲ知ラズニ休ム。（後略）

四月二十九日　木　晴　（前略）午後文科会ノ特別講演（誰ガ決メルノカ）ガアルトイフノデ、商科モ文科モ業ヲ休ム。講演トイフノハ与謝野鉄幹ト西村猪作トカイフ詩人トカノ話。日長ノ頃睡気ガサシテ寝言ヲイウタノジャト思ヘバ了解モ出来ル。

五月一日　土　夜半頃ヨリ降リタル大雨、暁ト共ニ晴ル。（前略）午後桃山中学ト中学部トノ野球　九対八ニテ勝ツ。庭球モ高商ノモノトヤッテ居タ。（後略）

五月二日　日　晴　礼拝赤沢[5]〈元造〉氏、須磨ニ〈神戸〉又新（ゆうしん）〈日報〉ノ角力アリ。〈村上〉槙三行ク。〈村上〉謙介モ午後行ク。午後真鍋〈由郎〉、堀〈峰橘〉、吉岡〈美国〉ヲ訪フ。

五月四日　火　曇　慶応〈義塾〉ノ剣道、武者修行来リ、午後試合アリトイフノデ往キテ見ル。試合ハヤラズ、練習

ヲヤッテ居タノデ少シ見テ帰ル。（後略）

五月五日　水　晴　午後文科新入生歓迎親睦会。九州学院ヨリ来タ坂井〈末夫〉暴論ヲ吐キ、次デ岡田〈貢三〉モ川那辺〈惇一〉ニアテコスッタヤウナ話ヲヤッテ一寸白ケル。全体ノ文科会ナドイフモノハ一寸開キニクウナッタト思フ。（後略）

五月七日　金　曇後雨、東風強シ。（前略）午後教師会議、問題ハユニットシステム。[6]

五月八日　土　曇小雨　午後同志社ト庭球アル筈ノトコロ中止、県高ト野球負ケタル由、後デ聞ク。（後略）

五月十五日　土　晴　鵜崎〈庚午郎〉氏来テ朝高等部ト中学部ノ生徒ニ二回ニ話ヲスル。一時ヨリ其歓迎会、学生会館ニテ。池田〈多助〉聖書、予祈祷、吉岡〈美国〉歓迎辞、鵜崎〈庚午郎〉答辞、メシ、鯛焼、玉子焼ニ莢豆、カステイラ、コーヒー、ミルク苺。同志社トテニス、優退三、不戦二組ニテ勝。敵ハ大将ノ組ガ我ガコンドハイッタ一年生ノ渡辺等ノ組（一組倒シタ後）ト戦ヒ、二オール、ジュースニテ漸ク一ツ勝チタルノミ。中学部モ〈神戸〉一中トヤッテ居タ。同部ニハ今日講演大会モアリ、夜ニ入ル。今日時間割ノ変更、及ビ前二時間トモ教師欠席ノタメ、四時間目ノ授業ヲ果サズ。

五月十六日　日　晴　鵜崎〈庚午郎〉氏説教、一時代遅タリ。（後略）

五月十七日　月　晴　（前略）午後中学部野球大会ヲ一寸覗イテ見ル。

五月十八日　火　晴　今日モ野球大会ヲノゾク。夜啓明寮ニ雄弁大会ノアリシヲ往テ見ル。途中ヨリカヘル。天気ハヨカッタガ真面目ガ少イ。

五月十九日　水　晴　記事ナシ。（中学部遠足）

五月二十一日　金　晴　午後中学部一年ト同部教師ノ野球ヲ見ル。〈村上〉謙介中堅ニ出ル。（後略）

五月二十二日　土　晴　板宿ニテ同志社大学ト野球試合アリ。往カズ。十一対七勝トカ聞ク。四年五年中学部試合ヲ見ル。十一対四ニテ四年勝。（後略）

五月二十三日　日　晴　朝留守番ニテ教会ヘ往カズ。今日鳴尾ニテ早稲田大学ト陸上競技[7]アリ　往カズ。六十三点対四十五点ニテ勝。岡山ニテ庭球[8]モ優退二、不戦一ニテ勝。

五月二十四日　月　雨　午後懸賞雄弁大会[9]、〈村上〉謙介特別講演ヲナス（生命ノ文学）。受賞、村井〈藤十郎〉、木村巳〈之〉吉、前川〈清〉。夜熱アリ、早ク寝ル。（後略）

五月二十六日　水　晴、夜〈H・F・〉ウヅウォース氏ノ宅ニテ一五会、人々石ハジキ早戻リ、独楽（こま）ナドシテ遊ブ。

独楽奇抜ナリ。仲居型ノ肥ッタ英婦人ノピヤノヲ聞カサレル。達者ニ何デモ宙ニ覚エテ居テ弾クガバー式ナリキ。忙ガシイ時ハ難有クモナキ会ナリ。

五月二十八日　金　晴　（前略）今日ハ津山ト蹴球アリ。六対〇ニテ勝ツ。高等部ノグラウンドニハカナダ学校運動会ヲヤッテ居タ。

五月三十日　日　晴　罪ト赦トイフ題ニテハミル館[10]ニテ話ス。バンクーバーノ牧師赤川〈美盈〉トイフ人ニ逢フ。

六月二日　水　晴　午後遊園地ニテシカゴト試合[11]、六対四ニテ敗。二死ノ後三振シテ走ッタトキ、近藤補手ガ一塁ニ暴投シタ為三点入レタ。コレガ無カッタナラバ、多分シカゴハ入ラナカッタデアラウ。

六月六日　日　晴　朝堀〈峰橘〉氏説教、次デ洗礼二人アリ。（中略）午後早〈稲田〉大トノ野球試合、〈神戸〉居留地ニテアリ。二対二ニテ十二回マデツヾク。十二回裏ニテ早稲田一点入レル。

六月十一日　金　晴　午後中学部及一中ノ陸上競技、近距離及コート物ハ話ニナラヌ勝方ナレドモ、遠距離ノ競争ハ彼レ強シ。（後略）

六月十二日　土　晴　中学部ト同志社ノ野球、十一対四ニテ勝ツ。夜長野県伊那郡松尾小学校ノ柳田静雄[12]トイフ人訪来、後共ニ堀〈峰橘〉ヲ訪フ。

六月十三日　日　晴　（前略）十一時ヨリ高商ト庭球試合。往カズ。間ニ一寸覗イテ見タレドモ、スグ帰ル。（後略）

六月十五日　火　曇小雨、夜祈祷会ヘ往キ。（後略）

六月十六日　水　雨　雄弁会練習ノ批評ヲ頼マレテ為シ、演説組立法ニツキ話セヨトイフコトニテ話ス。其ヨリ教師会ニ出日暮ニカヘル。

六月十九日　土　曇　中学部ト高商ト野球ヲヤル筈ナリシガ無シ。

六月二十日　日　晴　堀〈峰橘〉氏ノ説教。（後略）

六月二十一日　月　雨　文科生徒大阪朝日見学ニ往キ業ナシ。

六月二十二日　火　曇　神学部今日ヨリ試験、予本日業ナシ。

六月二十五日　金　晴　夕刻村井〈種一〉石本〈廣一〉氏来訪、金ノコトノ談。夜大岩〈元三郎〉ヲ訪フ、不在。

六月二十六日　土　晴　朝大岩〈元三郎〉氏ヲ訪フ。チャペルデ出征選手激励会トカイフモノヤリテ二時間目ガツブレル。四時間ノ後デ〈H・F・〉ウヅウォース氏ニ逢ウテ学校補助金ノコトヲ談ス。（後略）

六月二十七日　日　雨　堀〈峰橘〉氏放蕩息子ノ談。夜

雨モ風モ猛烈、寄宿舎ノ生徒溝浚（みぞさら）ヘヲヤル。（後略）

六月二十八日　月　雨　英国軍艦ト蹴球戦ヲヤル筈ナリシガ、雨ノ為ニ中止。水兵ドモハ雨中ニ行フツモリニテ多ク来リタリ。

六月二十九日　火　曇後晴ル　出発前ニテ雑用多シ。十二時半箱木〈一郎〉要求ノ件ニツキ大岩〈元三郎〉、〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉二氏ト会談。午後銀行ニ行ク。夕刻選手ト会合、（中略）蹴球戦今日ヤル筈ナリシガ英艦急ニ発錨（ママ）スルヲ以テ止ム。（後略）

［三十日ヨリ七月廿四日マデノ記事ハ羈旅漫語ニアルヲ以テ省ク。］

（註、［　］内記載ノ期間、学院剣道部ト共ニ満鮮旅行[13]ヲナス。其間ノ随想ヲ「羈旅漫語」ニ記ス。多クハ直接学院史ニハ関係ナキモノナルヲ以テ、以下、特ニ関係アル事項ノ要領ノミヲ漫語ニヨリ記ス）

六月三十日　正午神戸港出帆、ハルピン丸、師範範士高橋赳太郎、顧問村上博輔。

七月四日　午前八時大連着、振東社ニ泊ス。

七月五日　午前六時、満鉄道場ニテ稽古、午後大連中学校ニテ稽古。

七月六日　午前六時満鉄道場ニテ稽古、旅順工科学堂[14]武道場ニ泊ス。

七月七日　戦跡見学、午後振武館ニテ稽古、泊所前夜ニ同ジ。

七月八日　午前博物館見学、午後振武館ニテ紅白試合

午後八時卅五分旅順発。

七月九日　午前八時十分営口着、同地見学（烟草製造所等）。午後三時卅分同駅発。午後六時卅分鞍山着、扇屋旅館一泊。

七月十日　鞍山製鉄所見学、午前〇時四十分　鞍山発。

午後五時　撫順着、工業学校寄宿舎一泊。

七月十一日　練習。

七月十二日　午前炭鉱見学、午後五時ヨリ紅白勝負。

七月十三日　午前五時十分撫順発、奉天着、満鉄倶楽部ニ泊ス、坪田〈寿男〉選手チブスノ疑アリ、医学堂[15]付属病院ニ入ル午後四時医学堂道場建武館ニテ練習試合。

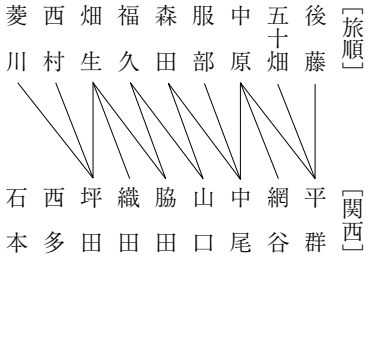
七月十四日　午前城内北陵其他見学。

七月十五日　附近工場見学、午後九時五十分奉天発。

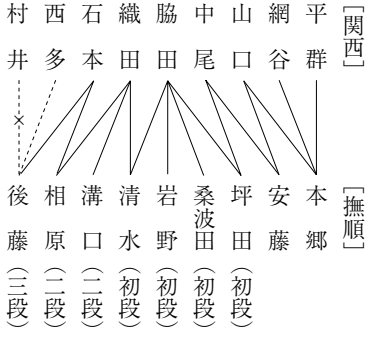
七月十六日　午前七時四十分長春着、満鉄倶楽部ニ泊ス。

午後三時紅白勝負、其他練習。

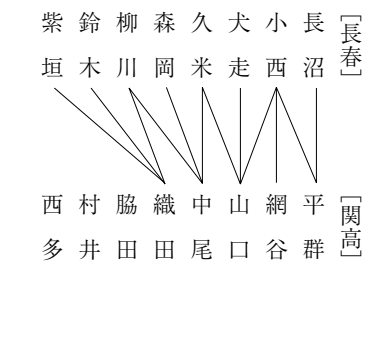
七月八日



七月十二日



七月十六日



七月十七日　午前六時三十分長春発、八時十四分公主嶺着、農事試験場見学　午後〇時二十八分同地発、午後七時五十分奉天着、満鉄倶楽部一泊。

七月十八日　午前八時五十分奉天発、午後五時四十六分安東着、旅順安東館ニ泊ス、練習。

七月十九日　午前五時四十分安東発、翌廿日午前六時五十分京城着、寿町原金旅館ニ泊ス。

七月二十一日　午前京城中学校ニテ練習試合、午後警官講習所ニ於テ試合。夜陣之内康雄氏ノ武徳館ニテ地稽古、歓迎会。

七月二十二日　昌慶苑等見学、午後七時二十分京城発。

七月二十三日　午前六時三十五分釜山着。

七月二十四日　朝下関着、解散。午後十時二十分三宮着、帰宅。

［注、本旅行記ニハ又諸所ノ見聞感想等多シ。其中、旅行団自体ニ関スルモノヽミヲ次ニ抄記ス］

六月三十日「…殊ニ剣道部ノ発程ヲ送ラウトシテ、高等部ノ多クノ学生応援団ヲ真先ニKGノ白字ヲ現ハシタ大紅旗数旒ヲ押立テ他ハ小イ青旗ヤ紫旗ヲ振廻シテ来ル。中学部ノ剣道部モ優勝旗二旒ヲ振立テ代表者三名ヲ使トシテ

七月二十一日

［関西］　［京城］

平群　澤田
網谷　原
山口　川崎
中尾　桜井
脇田　山口
織田　静原
村井　井口
西多　横山

七月二十一日　午後

［関西］　［警官］

平群　内海
網谷　佐多
山口　大野
中尾　星子
脇田　二階堂
織田　古川
村井　神谷
西多　井上

来ラセテ居タ。（中略）サテ柔道剣道庭球野球其他運動各部ヲ代表シテ来タ其々ノ選手タチ、其他校内ノ重立ッタ連中橋本〈喜吉〉君其他ノ卒業生、有志殊ニ商船会社ニ関係シテ居ル諸君、和田〈寛〉君木津〈乙象〉君ノヤウナ人等ハ船内ノ事ナドニ就キ彼是ト奔走尽力シテクレル、（中略）学生ノ一団ハ船ト陸トデ歌ヤフレーヤ万歳ヤヲ頻ニ交換スル、旗ヲ振ル、帽ヲ振ル、扇子ヲ振ル。盛ニ送テ貰ヒマスト選手ノ二三人ハ感心シテ密ニ予ニ囁イタ。元気ガヨイカラデモアラウ。中ニハ此イフ事ニ託ケテ課業ヲ休ニスルコトヲ幸ト心待テ居ルモノモアラウ。ケレドモ此遠征ニ就テ彼等一同ノ間ニ大ニ期待セラレテ居ル所ガナケレバ如何ナ理由ガアルニシテモ斯イフ活キタ現象ヲ見セル力ハアルマイ。兎ニ角遠征ノ人ヲ盛ニ送ルノハ前ニモ云フタ同情ノ現ハレデ美シイ行為デアル。選手ノ気ヲ励マス許デモナイ、友誼ト云フコトガ是ニ由テ認メラレ、是ニ由テ増進スルノモ事実デアルカラ。（後略）

七月四日…若イ奴等デモ皆閉口シタ様子デアル。帰ッタラ暑イト云フコトハ云ハレマセント云フ。其暑イノヨリモ飲物ガ自由ニ飲マレンノニ閉口スル。（中略）坪田〈寿男〉ナドハモウトテモタマランカラ、オレハ飲モウ、今日モ飲ンダ。此辺ノ人ガ飲ムホドヂャカラ我々ガ飲ンダッテ差支ハアルマイト云フ。ソレハ大イナル心得違イヂャト戒メル。酒ニ慣レタ奴ハ一升位平気デ飲ムガ慣レヌ奴ハ一合飲ンデモ大ニ病人ニナルデハナイカ。此イフ心得チガイガ屢々身ヲ過ツ大事ニナル。所ガ彼等ノ心得違イハ、単ニソレバカリデハナイ。彼等ノ荷物ノ間ヲ見ルト画端書ノホカ多クノ煙草包ガ転ンデ居ル。画端書ハ関係ナイガ此煙草ハ何如シタノカト云フト、土産ニ買ウテ来マシタ。大変安イト云フ。勿論土産ニ違アルマイ。予ノ目ノ及ブ所デハ煙草ヲ喫ムモノハ一人モ居ラヌ。陰デモ国ヘ帰ッテカラデモ此則ヲ破ルモノハ無イト信ジル。然シ土産ニシテモ自分ノ悪イト思フモノヲ人ニ遺ル所以ハナカラウ。殊ニ此満州デ煙草ガ安イ

ト云フノハ税ガカヽラヌカラデ、之ヲ持テ帰ルトナレバ税関デ二十五割ノ重税ヲ払ハネバナラヌ。然スレバ甚ダ高イモノニナル。ソレヲ安クシテ帰ラウトスルニハ税関ヲ欺イテ脱税ヲ図ラネバナラヌト云フ必要ガ生ジルガ、ソレハ悪事ヂャ。関西学院ノ学生ハ然イフ悪事ヲ真似シテ貰ヒタクナイ。吾々ハ選手トシテ試合ニ勝ツバカリガ任務デハナイ。関西学院生徒トシテ精神的ニモ満州ノ腐敗シタ空気ノ上ニ烈火ヲ投ジテ行カネバナラヌ。試合ニ勝テモ此精神的実戦ニ破レタラ学院ノ選手トシテハ失敗デアル。此点ヲヨク心得テ決シテ悪イ奴等ノ誘惑ニ動カサレズ、高尚ナル人格者トシテノ行動ヲ常ニ保ツヤウニセネバナラント訓戒シタガ、其意味ヲ解スベク彼等ノ心ハ余リ聾シテ居タカモ知レン。船カラノ様子ヲ見テ、予ハ選手ノ或者等ガ非模範的ノ学生デハアルマイカト思ハレテ、幾分カ失望シテ来タノデアルガ、此有様ヲ見ルニ及ンデ一層ソレガ固ウセラレタヤウニ思フ。規律トカ何トカ云フ端クレノ問題デハナイ。（中略）夕飯ヲ食フ。磐木ノ相図デ食堂ニ集ルノデアル。然シ我々ノハ別ニシテ先ニ出シテクレタ。食物ニ至テハ無論舎生ト同ジコトデアル。塩カライ豆腐ノ煮タノト赤大根ノ漬物、只ソレダケ、豆腐ハ味ガワルクテ食ヘズ。漬物デ辛抱スル。所ガ又其飯ト云フモノガマルデ口ニ立ツホドノ硬サヂャ。茶デ漸ク流シ込ム。茶碗ダケハ不恰好ナモノデモ大キイ。美味デ無クテモ多食スレバ滋養ニ不足ハナイト考ヘテ居タノデアルガ、斯イフ硬イ飯デアルト、トテモ当リ前ダケデモ食ハレヌ。是デハ身体ガ弱ルト思ウタ。此恐惶（きょうこう）ハ予一人デナイ。学生一同ニ亘ッテ居ル。スルト事ハ問題ニナル。彼等ハ毎日活動ヲヤラネバナラヌ。随テ随分疲労スル。ソレニ風土気候ノ違ヒト云フ天然ニヨリテモ大ニ弱ラサレネバナラヌ。其等ノ補充ヲ此様ナ食物ノ故ニ此宿舎ニ於テ取ルコトガ出来ヌトナルト、ツマリ一同ノ健康ハ先ヅ此大連ニ於テ破ラレルト云フコトニナル。誰ガ斯イフ準備ヲシタノカ。古イ無学ノ頭ドモニハ物ノ理ガ分ラナンダカ。ソレトモ我々ヲ投遣ニ扱ウタノカ、然シ今急ニ宿舎ヲ変ルワケニモ往クマイ。他ノ方法デ補ヲツケネバナラヌト云フニ、学生モ大ニソレヲ然リトシテ卵ヲ買テ来テ後カラ一同ニ配ル。明日モ此風ニ為ウト云フ。卵モヂャガ肉ヲ食ハナケレバ君等ノ体ノ欠乏ガ補ハレヌト云フテ聞カス。（後略）

七月五日…午後ハ同ク大連中学校デ地稽古ヲヤルコトニ定ッタガ往カヌ。大連デハ二三ヶ所試合ヲスル予定デアッタ所ガ来テ見ルト皆出来ヌト云フコトデ、ソレモ弥々確定シタノハ今日満鉄道場ニ於ル地稽古ノ後デアル。商業学校ハ既ニ休ニナッテ居ル。中学校ハ休デナイガ試合ノ相手デ

ナイト云フ。是等ハ先ヅ理由アルコトニシテモ満鉄ノ道場デ試合ガ出来ヌト云フコトハナイ。所ガ是モ要スルニ勝目ガナイ。ソレデ此地ノ世話ヲシテクレル種々ノ人ト云フモノガ皆其道場ニ関係ガアリ、弟子ト云フテモ実際ハ上役デ其人々ノ下ニ衣食シテ居ルモノデアルカラ、負ケサスコトガ気ノ毒ジャト云フ遠慮カラ、今朝地稽古ノ様子ヲ見テ、其人等ノ間ニ決定サレタノデアル。高橋〈赳太郎〉老人ハ我選手ノタメニ試合ヲ要求スベキ筈ノ人ヂャガ唯々諾々頭ヲ下ゲテ只人ノ云フ通リニナル人、来テ世話ヲ受ケテ居ル人々ノ意見ニ反対スル勇気ヲモタヌ人デアルカラ、向フノ言フ通リニ平伏シテ居ル。甚ダ可笑シイコトダト思ウタ。然シ学生其者ガ既ニ其ヲ承諾シテ来タノデアルカラ、黙ッテ居ル外ハナイ。元来高橋〈赳太郎〉氏ガ此行ノ使命トイフコトヲ考ヘズ、昔ノ師範ガ内弟子ドモヲ引連レテ旅行スル位ニ心得テ居リ、ソレニ此他ノ人々ガ又高橋〈赳太郎〉氏ヲ歓迎シテ遊バスコトヲ主眼トシ選手ノコトハ付タリニ扱フト云フ大ナル間違ガ有ルノデハナイカト見エルヤウナ所カラ此行違ハ生ジテ居ル。ソレデ予ハ予ノ不服ヲ表ス為ニ今日午後ノ稽古ニハ往クマイト決心シタ。選手ハ諸所デ稽古ヲシテヤリ、其ヲ礼ニ満州ヲ見物サセテ貰フ乞食旅行ヲ目的トシテ此地マデ来タノデハナイ。此地ノ教士(ママ)等ニ自分ノ稽古ヲシテ貰フタメニ来タノデモナイ、試合ニ来タノデアル、（中略）学生等モ中学校デ稽古ヲシタ御礼ニ菓子箱ヲ一ツト金子ヲ十円貰ウテ帰ル。一歩譲ル試合ヲシテ草鞋銭ヲ貰ウテ歩ク。マルデ昔ノ乞食修行ノ様ニ見エル。ソレヲ只一行ノ窮状ヲ知テ都合ヨク計ラウテクレル此地ノ人々ノ親切ヂャトダケ悦ンデ居ルトイフ選手ノ方モ大ニ単純ノ謗ガアル。人ノ世話ニナラネバナランガ又大ニ強イ所モ無ケレバナラン。主張ヲ曲ゲテ金ヲ貰フト云フ風ニ見ラレルノハ、先ニ其ヲ握ラサレルノハ無論デアルガ、礼トシテ後カラ貰フノデモヨクナイ。

七月六日…所ガ又今夜旧市街ノ方カラ学生ニ誰カ来テクレヨト云フコトデアッテ石本〈廣一〉ト村井〈種一〉トガ行ク。スルト高橋〈赳太郎〉老人カラ当地ニ於ル人々ト相談ノ結果中学校ハ段ガ違フカラ、又工科学堂モ試験最中、且上級生ガ実習ニ出テ不在デアルカラ、共ニ試合ハ出来ヌ、ソレデ明日ハ戦跡ヲ遊覧スル。明後日各所一同振武館ニ集ッテ稽古ヲスルト云フ通知ヲ得テ帰ッタ。予ハ大ニ怒ッタ。決メタトハ誰ガ決メタカ。高橋〈赳太郎〉君モ此地方ノ師範等モ之ヲ決メル権利ハナイ。決メルモノハ最初此遠征ヲ交渉シタ君等選手ト当地ニ於ル選手トノ間ニアル。師範等ガ交渉ヲ取次イデクレタモノトスレバ、ソレハ選手

ノ意思ヲ以テ為タ筈デアル。ソレニ何ゾヤ彼等自ラノ都合デ勝手ナコトヲ話合ウテ而モ其ヲ我々ニ一言ノ相談モナク決メタト云フノハ僭越ヂャ。其決定ハ無効ヂャ。君等直接ニ当地ノ選手ニ会ウテ事ヲ決メタマヘ。君等ハ単ニ武術ノ稽古ヲスル為ニ満州三界来タノデハナイ。今現ニ有テ居ル腕前ガ何ノ位マデ通ルモノカ試スコトガ第一ノ目的デハナイカ。運動部及他ノ学生ガアレホド盛ニ送テクレタノモ試合ノ結果ヲ見ルガ為デ、諸君ヲ練習サセルト云フノガ目的デハナカッタノヂャ。試合ハ第一ノ目的デアル。中学校ヤ工科学堂ハ不幸ニシテ差支ガアルトシテモ、支ノナイ民政署ガアル。試合ガ出来ント云フコトハナイ。大連デモ然デアッタ。高橋〈赳太郎〉老人ノ計ラヒ一ツデ満鉄ノ人々ト試合スルノハ確ニ出来ンコトデハナカッタ。是ハ只当地方ノ自分等ガ関係シテ居ル所ノ弟子ニ試合デ負ケルノヲ面白ク思ハヌト云フ弟子ニ諂ビル心ノ強イ人々ガ試合ヲスマイトスル。ソレニ客トシテ世話ニナッテ居ル身分デアルト云フコトヲ思ウテ、高橋〈赳太郎〉君ガ反対スルコトヲ得セヌト云フ事情ニ由テ決メタノヂャ、ソレニ今一ツハ高橋〈赳太郎〉君ガ諸君ヲ何デモ其命ニ従フベキ内弟子デアルカノ如ク心得テ師匠ト云フコトヲ余リ深ク気取リスギテ居ルノヂャカラ斯イフ事ガ出来ル。世話ハ世話、仕事ハ仕事、其間ニハ分界ガアル。個人間ノ私情ヲ以テ公事ヲ犠牲ニスルコトハ出来ヌ、高橋〈赳太郎〉君ハ剣道ノ教師デアッテモ此旅行ハ諸君ガ彼ノ褌ヲ被イデ連ラレテ廻テ居ルノデハナイ。諸君ガ遠征ヲスルニツキ顧問トシテ彼ヲ伴ウテ来タノデアル。遠征ノ主人ハ君等デアル。決シテ彼等ノ云フ侭ニ唯々トシテ居ッテハナラヌ。彼等ヲ除外シテ選手同士デ何如スルカヲ決メタマヘ。若シ何トカイフモノガアレバ僕ガ相手ニナルト云フ。ソコデ彼等モ大ニ同意シ又励ンデ、モ一度往テ確メテ来ルト云フ。而シテ談判ヲヤッタ結果兎ニ角明日ハ遊覧シテ休マウ。明後日紅白勝負ヲヤラウト云フコトニナッテ帰ッタ。旅順ヘ往タラ三所デヤル必要ハナイ。一所ニ集メテ稽古ヲシテ一日ハ終リ遊ブガヨイトイフコトハ、高橋〈赳太郎〉老人ニユックリ遊覧ヲサセルト云フコトヲ根本トシタ考デ大連ニ於テスデニ師範等ガ相談シテ居ツタノデアル。当時ハホンノ戯談位ノコトデアラウト考ヘタカラ黙ッテ居タガ、今ソレヲ実際ニヤラウトイフノハ怪シカラン話ヂャ。

七月七日…民政署ノ道場振武館ノ前ニ戻ッテ車ヲ留メル。二時四十分デアル。是カラ試合ヲスルトカセヌトカ云フノデアルガ、予ハセヌモノト心得テ居ルノデ其積リニ行動ヲ取ル。シカシ模様ヲ見ナガラ一寸場内ニ入ッテ見ルト名モ

知ラヌ種々ノ武芸家ラシイ奴、此ンナ処デナイト賢サウニハ出来ヌ奴等ガ控所ノ上座ニ傲然ト扣(ひかえ)テ居ル。警察官ナドモ二三人集ッテ居タ、其ノ武芸家ラシイ奴等ノ尊大ニ構ヘテ居ルノハ甚ダ滑稽ノ至デアル。人々ガ入テ来テ低頭平身スルニ対シ首ダケ一寸動カシテ僅ニ礼ヲ返スト云フ風。予ハソレト認メタノデ此方カラモ首ダケ下ゲテ礼ヲスルト人々ハ大ニ驚イタ。シカシ当然ノコトデアル。糞デモナイ奴ラヂャ。其カラ今日試合ヲスルトカセヌトカ云フニ就テモ大ニ勝手ナコトヲシタ。昨夜学生ガ決メタノデハ今日ハ見物ダケニシテ休ミ、試合ハ明日ニスルト云フノデアッタ。其レデナケレバ今日試合シテ明日見物スル。ソレガ初ノ予定ヂャト云フタノデアル。ソレヲ又彼等ノ都合デ勝手ニ日取ヲ変更シテ押付ニ其通リニサセウト云フ無礼ナ仕方ニ従フ必要ハナイ。殊ニ試合モ昨夜ハ学生ト約シ紅白勝負ヲスルト云ウテ置キナガラ、今日ニナッテ又其ハ出来ヌナド、云フラシイガ、大ニ不都合ヂャ。厳重ニ談判シテ必ズ紅白勝負ヲヤレ、我々ハ彼等カラ召集セラレテ来タノデハナイ。対等ノ賓客ヂャ。此方ノ思フ所ヲ云ウテ、其デ先方ガ不服ナレバ試合ヲセズニ帰ルマデヂャ。兎ニ角予ハ此試合ハ認メヌデ、仮令有テモ立合ハヌ。此ウ云フコトヲ勝手ニ承諾スルト云フノガ高橋〈赳太郎〉氏ノ誤ヂャ。此点ニ就テハ同氏ニヨク談シタイカラ、此処ガ済次第予ノ所ニ来テ貰フヤウニ言ウテクレヨト選手ニ云ヒツケ、次ニ溜リ所ヘ往テ高橋〈赳太郎〉氏ニ逢ヒ、御話ガシタイカラ、此所ガ済ンダナラ直ニ予ノ宿所ヲ訪ネテ下サルベシト直ニモ云ウテソレカラ振武館ヲ出テ去ッタ。（中略）明日紅白勝負ヲヤルト云フコトニサヘナレバ第一ノ要件ハソレデ済ム。今急ニ高橋〈赳太郎〉老人ニ会ハネバナラヌト云フコトモ無イデ来ヌコトハ先ヅヨロシイ。兎ニ角剣士ナド、云フモノ、愚劣ナ事ハ事々ニアキレルノ外ハナイ。単ニ剣士ダケデナイ。斯イフ社会ハスベテ皆此ヤウナモノデアラウ。（中略）今晩モ八時カラ学堂剣道部ノ人々カラ親睦茶話会ニ招カレテ（中略）学生ノ会合ハ罪ガナクテ一番ヨイ。但シ罪ガ無イダケニ其談話ヲ傍カラ聞イテ居ルト才学ノ優劣ガ自然明白ニ見ラレルカラ、世ハ様々ノ思ガスル。幸学科ノ同クナイ学校デアルカラ直接知識ノ優劣ト云フコトニハ考ヘラレンガ、仮令バ白玉塔ノ談ガ出テ、予ガアノ量目ヲ計算シタラ面白カラウ。設立者ノ所ニハ勿論分ッテ居ルデアラウト思ハレルガト云フト、一人ハ六ヶ敷イコトハアリマセンガト云ヒ、一人ハマルデ空想ノヤウニ思ウテソンナコトガ出来マスカト云ウテ笑ウタ。工科学堂ノ生徒ガ数学ニ於テ商科ノソレニ勝ッテ居ルト云フコトハ勿論別ニ不思議モナイコ

トデアルガ。

七月八日…大連ヲ出テ暫クスルト、学生ノ一人ガヤッテ来テ、気付ノ為メ葡萄酒カ麦酒カ貰ウタカラ飲マシテクレヨト云フ。予ハ飲マストハ得言ハヌト云フ。スルト其デハ大目ニ見テクレヨト云フ。大目ニ見ルモ見ンモナイ、勝手ニ飲ムト云フノナラ無理ニソレヲ止メハセヌ。又勿論強テ告発スル必要モナイ。然シソレヲ言ハネバナラヌ必要ガアレバ遠慮ナク言フト云フ。学生ハ其侭アチラヘ往タガ、後大ニ飲ンデ居タ様子ヂャ。是ハ今度付イテ来タ岡田ト云フ師範役ノ計画ト見エル。運動部ノ難問題ハ斯イフ奴ガ学生ニ交ッテ其風儀ヲ乱スコトヂャ、彼等ハ人格モ道徳ヲ顧慮スルヤウナモノデハナイ。ソレダケ何デモ云ヒ又行ウテ学生ノ気ニ投ズル、学生モ運動ト云フ方面ニ踏出スト自ラ学校ノ教師ヨリモ然(しか)イフ奴等ニ親ンデ其言フコトニ聴従フト云フ心ガ深イモノデアル。ソレニ糞蝿ガ糞ノ臭ニ勇ミカヘルト云フヤウニ無志低能ノヤツラニナルト、悪少年ノ劫経タヤウナ悪イ先輩ヲ其悪イ所ニカキ廻サレル傾ガアル。マシテ撃剣ヤ柔道デハ他ノ野球ヤテニスノヤウニ只先輩トカコーチトカ云フヤウナ名義デナイ。歪ミナリニモ先生ト云フ名ヲ以テ呼バレテ居ル。ソコデ大ニ仕悪ウナル。殊ニソレガ満州ニハ沢山アル。金銭ノ融通ガヨイ、決シテ此所ハ学生ナドノ遠征ヲ許スベキ所デナイト思フ。此度ノコトデモ学生其者ノ意志ト能力トガ堅固デアレバ勿論彼等ガ何トイフテモ其手ニハ動カサレヌト云フ訳デアルガ。現在彼等ノ低能ト無志力ナノトハ大連以来ホト〳〵呆レタ。トテモツケル薬ハナイ。驢馬ニ駿馬ノ鳴声ヲ求メタ所デ到底出来ルモノデナイ。此輩ニ何ヲ云ウテモ要スルニ言ノ徒費ニ過ギズ非常ナコトノ無イ限リ黙ッテ放テ置クヨリホカ仕方ガナイト決心シタ。船ノ中デ樺沢ガ居リ、旅順カラ岡田ガ居ル。是ハ彼等ノ向上ニ千鈞ノ力ヂャ。救済ノ見込ハナイ、然シ彼等バカリデナイ、現代社会ノ悪傾向ハ丁度インフルエンザガ荒レ廻ルノト同ジ風ノ吹廻シニヨルノデアルカラマスク位デ何如トモスルコトハ出来ヌ。其中ニヨイモノモアルカラ、ソレヲ心ノ友トシテ折ヲ待ツガヨカラウ。

七月九日…東亜会社ノ煙草製造所マデ返ッテ来ル。ソコデ縦覧ヲ求メルト其案内ニ来タ人ノ注意、機械ニ触レヌコト、仕事ヲ妨ゲヌ事等ハヨイガ、煙草ヲチョロマカサヌコト、ハ随分人ヲ馬鹿ニシテ居ル。初代ノ学院生徒ナラ大ニ怒ッテ縦覧ヲヤメテ出タノデアラウガ、今ノ学生ハ無礼ナコトヲ云フヤツヂャトヒントヲ与ヘテヤッテサヘ、此点然イフ人ガアッタノダカラ、アヽイフノモ尤モヂャト註ヲ入テ腹ヲ立テズ。只見セテ貰フト云フ恩典ヲ得トシテ有ガタ

ガッテ居ルノハ大分違ウテ来タモノヂャ。ト云フテ別ニ温厚ノ徳ガ加ハッタト云フ訳デモナイ、不規律デ無作法デ人ニ指揮セラレルコトニ至ッテハ他ニ譲ルモノデナイ、一人ハ次ノ工場ニ移ルニ他ハ漸ク其工場ニ入テクルト云フ調子、而モソレガ悠々トシテ駄弁ヲ弄シ、フザケ半分ニ急ガウトモセズ、案内ノ男ニハ断エズ疑惑ノ眼ヲ放タレ、一度ナラズ人ヲ待タセ困ラセルナドニ至テハ殆ド何トモ言様ガナイ。実業家ト云フモノハ必ズシモ権利義務ヲ忘レタリ物ニズルク構ヘタリスルヤウニ仕込マレテ居ルノデモアルマイガ。（後略）

七月十日…朝八時一同結束シテ製鉄所ヲ見ニ行ク。（中略）後続モノガ遅イノデソコデ休ンデ暫ク待合ハスコトニスル。彼等ハ実ニ何処ヘ往クトキデモキチント揃ウテ出カケルトイフコトハナイ。西洋人ハ固マッテアルク。日本人ハサバケル癖ガアルト云フガ、彼等ハ其性癖ヲ最モヨク表現シテ居ルモノト思ハレル。所ガスベテ人種的性癖ニヨリ支配セラレルモノハ修養ノアル人物デナイ。無学粗野ナ自然人デアルト云フ所カラ帰納スルト忌ハシイ結論モ生ジテ来ル。然シソレハ今止メテ置カウ。然ルニ何時マデ待テ居テモ其中ノ五人ト云フモノハヤッテコヌ。視察ヨリ寝テ居ル方ガ楽ナノデアル。或ハ又詰ラン市街ノ方ヘマドラスノヤウニウロツキニ往クカ、仕方ガ無イ此侭デ案内ヲ頼ムコトニスル、（中略）ソレカラ暫ク焼砂ヲ踏ンデ右ノ方ヘ出ルト遠ク隔ッテ瓦斯製造所ガアル。折角ノコトヂャカラ巡覧スルコトニシタガ、学生ハ何時ノ間ニカ次第ニ落伍シテコークス製造所ニ往クコロニハ脇田〈徹夫〉生ガ只一人居タ許デアル。例ノ如ク我侭ヲ発揮シタ許デナイ、基礎知識ノ無イ所カラ斯イフヤウナ場所ヘ来ルト只煩雑ヲ覚ヘルダケデ興味ガ生ジテ来ンカラデアラウ。（中略）何故途中カラ帰ッタカト学生ニ聞イテ見ルト、此ンナ面白ウモナイ所ヲ廻ッテ見ラレマスカト云フ、鞍山ハ此通リジャカラ、始カラ行クマイト言ウタノジャト云フト、ソレデモ一寸来テ置カント帰ッテカラ満州ヲ視察シタト云フ報告ガ出来マセヌカラト云フ。要スルニ其報告ヲ造リタイタメ此場所ヘ足ヲ下シタノジャ。写真機ヲマハシテソココ面白ゲナ所ヲ写サセル。絵葉書ヲ買フ。悪蔵杢蔵ノ噂ヲアツメル、視察ト云フノハ要スルニ似タヤウナコトヲ吹クモノデ、旅行ト云フノハ昼寝ヲシナガラ甲ヨリ乙ヘ転ズルコトジャ。是ハワガ小部隊ダケデナイ。文部省アタリカラ派遣セラレル留学生ト云フモノ、中ニモ然イフヤウニシテ作ラレル報告ハ少クナイト云フコトヲ聞イタ。自分ノ為ニ生キズシテ人目ノ為ニ生キルト云フ詰ラン心、事々ニ不真面目デ誤魔化ス

コトニ小才ノ利ク、働クハイヤ、贅沢ハシテ見タイ、人ハ倒シテ名利モ執ラウ浅マシイ根性、ソレガ我ガ国ノ人ノ心。（後略）

七月十一日…今晩ホテルデ晩餐ヲ献ジタイカラ其侭来テクレト云フ話ガアッテ、（中略）此会合デ盛デアッタ話ハ撃剣ヲ大ニヤラネバナラヌト云フコト。ヨホド油ガノッテ居タ。今朝選手等ニ大連デヤッタヤウニ元気ヲ出シテ烈シクヤルナ、向フノ手ヲ見サヘスレバヨイノデアルカラ、手弱ニヤレト云フテ置イタ。彼等モ皆今日ハ其積リデ居タノデアルカラ、虚ヲ見セラレテ撫順ノ奴等ハ大ニ元気ニナッテ来タ。明日ハ大丈夫、勝テルト云フ気分ニナッテ此油ガノッタモノジャト見込ンダ。換言スレバ全ク当方ノ計ニ陥ッテ居ルノジャ。ソレカラ後藤君ノ細君ガ寒稽古ヲ欠サナンダト云フ話ガ出テ、女デモヤラネバナラヌ、何処デハ斯ウ、彼処デハ斯ウト云フヤウナ話ガ出ル。其結果コレカラハ此ニ居ルモノ、、細君ヲ手初トシテ何ヨリモ先ヅ斯イフヤウナ試合ヲ見物サセルコトジャ、ソレニシヨウ、宜カラウ、極メタ、其ナレバ其ヲ先ヅ明日カラ実行スルコトニシヨウト云フヤウニキマル。此約束ハ人間ガ半分麦酒ガ半分デシタノデアルカラ、醒メタラ丁度半分ダケハ無効ニナラウガ。兎ニ角エライ事ニナッタト思フ。（後略）

七月十二日…五時カラ試合ガアル。道場ハ寄宿舎ノ直グ隣デアル。昼間ハ幼稚園ニ仮用セラレテアル。（中略）技ガアッテ拍子ガヨクテ、中テタ奴ガ勝チ中テラレタ奴ガマケル。試合ナド、云フモノハ何モ火ノヤウニナッテ怒ルホドノモノデハナイ。ケレドモ公平ノ判断ニヨルト敵ノ大将後藤ハ石本〈廣一〉ニ胴ヲ二度マデ取ラレテ居ル。ソコデ当然不戦二人ヲ残シテ勝タネバナラヌワケデアルガ、其後藤ト云フ男ガ例ノ後藤君デ当地支部ノ幹事ヲシテ居リ一同ガ世話ニナッテ今日モ自ラ炭坑ヲ案内シテ呉レタト云フ当地ニ於テノ主人役デアルノダカラ負ニスル訳ニ行カント審判ニ立ッテ居タ高橋〈赳太郎〉老人大ニ機転ヲ働カシ竹刀デ斬ッタノハ疵（きず）ガツカヌ、証拠ガ無イデ、幸ニ石本〈廣一〉ヲ負ニシ西多〈義明〉ヲ組マセル。西多〈義明〉モ小手ヲ切ッテ其小手ヲ取ッテ貰ハナンダト云フコトガアルガ、是ハマア敵方ガ二ツ切ルコトヲ先ンジタノデ彼ノ勝トセネバナラヌ。次ニ村井〈種一〉ガ出タ。コレハ何遍トナク面ヲ打ッタガ初一ツダケシカ取テ貰ハナンダ。而シテ後藤ノ竹刀ガ何如カシタ拍子ニ村井〈種一〉ノ額ノ側ノ所ヲカスルト面アリデ、ソレカラハ何ノ試合モナク裏審判ノ某ト申合セテ直ニコレデ引分ケニ致シマスハ気ノ知レタ計ラヒデアッタ。引分ハ普通勝負ガツカンデ引分ニスル、是ハ引分ニスル為

ニ向フヘ一本与ヘル機会ヲ待テ居タヤウナモノデアル。剣道ノ上カラハ取ラン。斯シテ引分ニシテ貰フハ明ニ負ケタヨリモ不愉快デアラウ。勝ッタモノ、不愉快ハ勿論言フニ及バズトシテ。試合ガ済ンダ後デ今晩話シニ来テクレト後藤君カラ懇々ノ頼デアッタノデ、他心ノナイコトヲ示スタメニモト思ヒ、夕食後村井〈種一〉以下三人ト一緒ニ出掛ケル。而シテ種々ノ話ヲシタガ、其間ニ高橋〈赳太郎〉サンガ宜イ加減ニ審判ヲシテ呉レタ為ニアヽイフ結果ニナッタ。村井〈種一〉君ニ何遍切ラレテ居ルカモ知レント後藤君自カラ言ウテ居タ。此後藤ト云フ男ハ八尾中学ヲ出テ札幌農科大学ニ入リ、四方君ナドトモヨク知合デアルト云フ。楠公前ノ玉簾ノ主人ガ其叔父ニアタルトカキイタ。八尾時代カラ大将ヲツトメ撃剣ニ於テモ相当ヤルガ、人物ハクリスチャンデ温厚有徳ノ人デアル。

七月十三日…満鉄倶楽部ノ三階ヘ案内セラレル。此処ニ泊ッテ三度ノ飯ハ三四丁モアル食堂ヘ喰ヒニ行クト云フノデアル。種々ナ目ニ逢ワサレルコトジャ。旅順デ学校ノ食堂ヘ出掛ケルノデモ面倒デナイコトハ無カッタニ、是ハ又其ヨリモ遠イ、第一今日ノヤウナ雨ノ降ル日ヤ熱イ日ナドニハ甚ダ迷惑ナ次第デアルト思フガ仕方ガナイ。然シ今日ノ中食ダケハ持テ来テクレルト云フコトニナッテ居ル。今着イタバカリノ所ヘ入替リ人ガ来ルノデ座ッタマヽ半日ヲ過ス。ソレニ坪田〈寿男〉ガ撫順ヘ来ル日カラ病気ニカヽリ、初ハ暑ニ中テラレタヤウデアリ、撫順デ医者ニ見セタトキモ、別ニ大シタコトハナイ、胃腸ガ少シ悪イダケト云フヤウナコトデアッタガ、何如モハキ〳〵治ランノデ千頭君（注南満医学堂千頭直之氏）ト一緒ニ石本〈廣一〉ヲ添ヘテ医学堂付属ノ病院ヘヤッテ診断ヲ受ケサセル、所ガ今日ハ熱ガ九度五分アッテチブスノ疑ガアルト云フノデ、兎ニ角入院スルコトニナル。其ヤ是ヤデ何モセズニ昼飯ノ時間マデ費ヘル。（中略）午後三時カラ医学堂ノ道場建武館デ稽古試合ガアル。（中略）四組ヅヽ戦ハシテ暫クスルト笛ヲ吹イテソレヲ止メサス。又新手ヲ入替ヘルト云フ風デ始ハ関西選手ト此地ノ人々ガヤリ、次デ選手ト教師等トガヤル、終ニ教師等同士デヤルト云フ風、其等ハ何処デモ先ヅ同ジコトデアッタガ、茲ニ其教師同士ノヤッテ居ルノヲ同ジク教師ノ某ガ弥次ッタト云フノデ口論ガ始ルト云フ珍事ガ起ッタ。今日倶楽部デモ樺沢君ガ何カ相談シテ居ッタトキ、岡田君ガ又他ノ相談ヲ始メ出シ八釜敷イノデ、チトソチラハ黙レト戯談ニ云フタガ気ニ障リ立廻リニナリカケルト云フ騒ガアッタ。今ノ弥次モ固ヨリ一ツノ戯言ニ過ギヌ、打合ウテ居ル奴モ勿論真面目ノ試合デハナイ、弥次ラ

レタトテ何モ怒ルホドノ理由ガアルノデハナイ。所ガ斯イフ手合ノ多数ハマルデ礼儀モナク勘弁ノ足ラヌ輩デ少々ノコトニデモ直グ激スル。激スレバ罵リ合フト云フ有様。角突合デモスル気デナケレバ寄ッテ居テモ甚ダ面白クハ感ゼラレヌコトヂャ。（中略）ソレカラ一同庭園ノ片隅ニ食卓ヲ並ベテ夕食ノ馳走ニ与ル。選手モ勿論ミナ席ニ列レテ居ル。而シテ先ヅ牛肉ノ鋤焼ガ出ル。日本酒ガ出ル。麦酒ガ出ル。予ハ勿論酒類ニ口ヲ触レナイモノデアル所カラ、別ニサイダーヲ与ヘラレル。学生等ハ勧メラレルマヽニ飲ンデヨイ気ニナッテ詰ラヌコトヲ恥シゲモナク喋舌ッテ居タ。到底訓戒ヲ加フルニ足ラヌ奴、甚シイコトヲ為ヌ限リ将来モ何事モ放チテ置カネバ仕方ガナイ。会食ガ済ンデカラ伝染病室ニ坪田〈寿男〉ヲ訪フ。熱ハ高ク四十度ヲ超エテ居ル。今日血液ヲ取ッテ試験ニカケタノデ明日ハ何レ結果ガ分ル。幸ニヨイ看護人ガ有タノデ其方ハ安心デアル。帰路ハ道ガ紛ラハシイカラト云フノデ千頭〈直之〉君カラ小使ヲ添ヘテ宿マデ送ラセテモラウタ。

七月十四日…奉天其他ノ建物ハ此種類ノ日本ドロノ手ニヨリテ破壊セラレタコトガ少クナイ。彼等ハ古瓦許デナイ、屋上ノ金瓦其他何デモ手ニカヽルモノハ尽ク斯イフ風ニシテ持去ルノデアル。所ガ不都合ニモ学生ノ中ニ何時ノ間ニカ此瓦ヲ護魔化（ママ）シテ風呂敷ヘ包ンデ出タモノガアル。ソレヲ門外（注　北陵ノ）デ自動車ノ腰架ノ下ヘ入レウトシタ所デ見ツケラレ事八釜敷クナッテ来タノデ、言語ハ通ゼズ叫声ヲ立テ、其中ノ一人ガ走リモドリ、人々ヲ招イテ早ク来テクレヨトイフ。何事ガ起ッタノカト飛デ往テ見ルト今ノ次第、然シ此人々ヲ呼集メタ勢ニアチラモ畏レテゞアラウ、温厚ニ今回ハ見逃スガ今後再ビ然イフコトヲシテハイカヌト云ウテ赦シテクレタ。金ヲヤラウト云フモノガアッタガ、金モイラヌト云ウテ受取ラヌ。支那人モ中々正直ニナッタモノヂャ。ソコデ事ハ先ヅ円満ニ治ッタガ彼ノ心ニ与ヘタ印象ト云フモノハ再ビ拭クコトガ出来マイ。斯イフコトガ積ッテ遂ニ拝（ママ）日ノヤウナコトニモナル。日本学生ノ恥デアル。所ガ何八釜敷イコトヲイハイデモ、アノ垣ノ外ノ方ヘ往テ見レバ古瓦ハ幾個デモ落チテ居ルト蔭ニナッテヘラズ口ヲタ、キ、自分ノ悪ヲ省ミズ、只他ノ悪イコトノヤウニ言イタリ思ウタリスルコトハ、日本人モ最モ悪イ所デアル。万事心ノ至滅ニヨラズ、口先ノ嘘ヲ以テツクラウテ恬トシテ恥ヂヌト云フ奴ホド、個人ニシテモ済度シガタイモノハナイ。

七月十五日…工場ヲ見テ帰リ食堂ヘ行キ中食ヲ済ス。其カラ坪田〈寿男〉ヲ見舞ニ往クガ中学部卒業生ノ中ニ誰カ

行クモノハナイカト云フト、伝染ヲ恐レテ誰モ往カウトハ云ハヌ。石本〈廣一〉ガ往タカラヨイト云フ。剣道部ノ代表トシテハ石本〈廣一〉デヨカラウガ、中学部ノ同窓ハ単ニ部員トシテノ交際デナイ。友人トシテ別ニ情誼ガアルノデハアルマイカト云ウテ見タガ中々動キサウデナイ。恐ロシイモノヽ前ニハ道理モ人情モ起タス力ハナイト云フ有様デアルカラ、強テトハ言ハレン、無理ニ伴ウテモシ伝染スルヤウナコトデモ有タラ後デ困ル訳ニナルト思ウタノデ遂ニ予一人出カケル。坪田〈寿男〉ノ病気ニ就テハ予ハ医者ノ口カラ重症デナイト云フコトヲ聞カサレテ居リ、又其身上ノコトニ就テハ岡田君ガ引受ケテ万事世話ヲシテヤルト云フコトニ極(ママ)ッテ居タガ、医者ガ二様ニ云ウテ居タノカ或ハ岡田君ガ引受ケルト云フコトニ就キ不安ニ思ハレル所デモアッタカ、千頭〈直之〉君ハ其後非常ニ心配シテ友人トシテ心易キ学生ニ一人留ッテ世話ヲシテ貰ヒタイト云フコトヲ発議スルヤウニナリ。相談ノ結果石本〈廣一〉ガ残ラウト云フコトニ昨夜決定シタノデアル。勿論予モ学生ノ居残ルト云フコトニ就テハ初ヨリソノ考モアッタガ、予トシテハ坪田〈寿男〉モ他ノ学生モ同ジコト、学生ガ進ンデ世話ヲシテヤルト云フモノガアレバ兎ニ角、其デナケレバ仕方ガナイ。症状モヨクナリ、心配シテ居タ下痢モ止マルト云フ有様デアルカラ、坪田〈寿男〉ガ自分デ気ヲ付ケテ千頭〈直之〉君ノ世話ニヨッテ平癒スルヤウニハカッテ往カネバナラヌコトヽ思ウテ居タ所ガ、其世話ヲスルト云フ千頭〈直之〉君ガ此要求ヲシテ来ル上ハ仕方ガナイ。然シ是ニ就テハ石本〈廣一〉デナク誰カ同窓生ノ向ニ留マルモノガアッテ欲シイト思ウタノデアッタケレドモ其ガナイ。村井〈種一〉ト西多〈義明〉ハ第一ノ責任者デアルガ恐レルコトガ亦第一ジャ。脇田〈徹夫〉ガ居レバ残テクレルト思ウタガ、是ハ鉄嶺ノ兄弟ノ宅ヘ往テ今此地ニ居ラヌ。ソレデモ脇田〈徹夫〉ヘト云フ話モアッタガ、不在ノモノニ推ツケルコトハ正シクナイト思ウタカラ、石本〈廣一〉ノ自ラ義侠的ニ進ンデ世話ヲシテヤルト云フ親切ヲ徳トシテソレニ極メタワケデアル。是ニ就テ予ハ中学部ノ出身者或ハ神戸辺ノ人間ト云フモノハ、口デ賢サウナコトヲ云フガ、真逆ナ時役ニ立ツモノハ少イト云フコトヲ感ゼザルヲ得ナカッタ。ソコデ予ハ医学堂ヘ行キ千頭〈直之〉君ニ逢ヒ坪田〈寿男〉ニ就テノ様子ヲ聞キ又種々ノ相談ヲキメタ。要スルニ彼ノ下痢ハ止ッタガ病気ハ心配デアル。ソコデ石本〈廣一〉ニ長春行ヲヤメ、病院ニ来テ泊ッテ世話ヲシテ貰ヒタイト云フノデアッタ。ソレカラ入院手続ニツイテハ樺沢ニ保証人ニナッテ貰フツモリデ有タガ承諾セヌノ

デ序(ついで)ニ千頭〈直之〉君ノ厄介ニナルコトニシタ。ソレカラ病院ヘ行テ坪田〈寿男〉ヲ見舞フ。看護婦ノ云フノデハ別ニ病勢ニ変リハナイガ、悪イ兆候ハ少シモナイト云フコトデアル。ソレデ又幾分カ安心シテ門ヲ出ル、〈中略〉来ルトカラ去ルトキマデ立テ居ルカ歩イテ居ルカ、寝ル僅ノ時間ノホカハ殆ド静トシテ居ラヌ恐ロシイ元気ナ旅デアルカラ旅情モ浮ンデ来ルモノハ何モナイ。随テ早ク去リタイト云フモ別ニ其地ヲ厭フノデハナイ。モ少シ留リタイト云フテモ、何カ見残シタ所ガアル位デ、何モ其地ニ名残ヲモツト云フノデハナイ。人間モ此位没趣味ニナッテ来ルト却テ呑気ナ所モアルガ、又浅間敷イモノデアル。所ガ世ニハ此通リニ一生ヲ渡ッテ往ク財産家ト云フヤウナモノガ多イノダカラ気ノ毒ヂャ。ソレデモ先ヅ今晩ハ別レト云フノデ、食堂デオムレツヲ一皿ヅ、余計ニ奢ル。ソレカラ石本〈廣一〉君ハ坪田〈寿男〉ノ看護ニ留ルノヂャカラ、学生同士ノ間ニハ種々ノ話合モ多カッタヤウヂャ。汽車ハ九時五十分ニ出ル。然シ此地ヲ去ルノデアルカラ、多少静ニ事ヲ纏メテ出ネバナラン。遊ニ往テ居ルモノハ早ク帰ッテ来ルベキデアルガ或者ハ中々帰ラン。其中ニ村井〈種一〉ト織田〈信雄〉トハ殆ンド時刻ノ間際マデモ帰ッテ来ン。是ニハ皆々心配シタ。彼ハ此遠征隊ノ指揮者ノヤウナモノデアッテ而モ又財布ヲ預ル世話役デアル。切符ノ如キモ彼ガ纏メテ持居ルノデアルカラ、一歩後レタラ一同又立往生ト云フ始末ニナル。ソレニ借リテ夜具トシタ毛布ハ先刻誰カゞ来テ皆ナ纏メテ持テ往タ。倶楽部ヘハハイラセテ貰フトシテモ、着テ寝ルモノガ無クテハ風ヲ引クト種々呟イテ居ルモノモアッタガ、英雄騒ガズ危険イ所ヘ車ヲ飛バシテ帰ッテ来タ。何処ヘ往テ居タカト云フトハルピン丸デ知合ニナッタ女ノ児ノ宅ヘ往テ饗バレテ来タト云フ。〈後略〉

七月十六日…試合ガスムト湯モスグ此倶楽部ノ内ニ在ッテソレデ汗ト垢トヲ流シ、ソレカラ二階ノ旧ノ間ヘ移リテ此地ノ有志ノ人々カラ支那料理ノ御馳走ニ預ル。学生ハ其間別室ニ移住サヽレテ茶菓ヲ以テノ振舞ニ与ル。是ハ実ニ我輩ノ主義ニ協ウタ待遇デアッテ、此計ラヒヲシタモノハ稲葉〈好延〉君デアッタト思フ。彼ハ同志社ノ卒業生デヨク我ガ学院ノ主義方針ヲ云フヤウナコトヲ理会(ママ)シテ居ル。支那料理ノ宴席デ関西学院ニハ総テ運動ガ盛デアル。学校カラ奨励シテ居ルノデアラウト云フヤウナ話ガ出テ其カラ選手ナドヽ云フモノハ運動ノコトハヨクヤルガ学問ヤ品行ノ方ハ修マラヌモノガ多イト云フ話ガ出タトキ、彼ハ熱心ニ関西学院ハ然デナイ、一面ニ運動ヲ奨励スルガ其ト共ニ一面ニハ基督教主義デ精神ヲ固メテ行クカラ、ヨク其平衡

ヲ保テ居ルト大弁護ヲヤッテ居タ。一寸身ヲ切ラレルヤウナ気ガスルガ、彼ハ然信ジテ居ル所カラ其主義ニ悖ルヤウナコトヲ為マイトシテ、学生ノ本分ハ労有リトモ奢侈ヲ以テ酬ハルベキモノデナイト明言シテ、酒ナドヲ遠ザケテ此茶菓ヲ出シタノデアル。満州ノ人々ガ皆此通リニシテクレ、バ学生ヲ送ルニツイテ何ノ心配モナイノデアルガ、酒ヲ飲マセテオダテ、オイテ、後デ馬鹿書生ガイド、舌ヲ吐ク奴等ガ多イノデアルカラ実ニ困ル。学生青年ノ浅慮カラ云フトキハ其舌ヲ吐カレル所ハ見ヌノデアルカラ、然イフ奴ヲヨク歓迎シテクレルモノト悦ンデ居ルノハ一応無理モナイノデアルガ、スベテ＋（プラス）ノ反面ニハ－（マイナス）ノ伴ウテ居ルト云フコトヲ考ヘルノガ悧巧ヂャ。世間ト云フモノハ水準以上ニ動キ得ルモノデハナイカラ。

七月十七日…八時十四分公主嶺ニ着ク。（中略）農事試験所ノ祝祭ニ出掛ケル。（中略）大雨ガ颯然トヤッテ来タ。ソレニ其牧場ト云フモノハマダ余程隔ッタ所ニアル。道ハマルデ泥田ノヤウナ仕末デ却テ畑ノ中ノ方ガ堅イト云フ有様。トテモ行カレル見込ハナイノデ断念シテ引返ス。尤モ此処マデ来タモノハ学生ノ中ニ三人シカナカッタ。他ハ皆試験所カラ帰ッテ行ッタ。例ノ如ク視タ所デ何モヨク分ランノデアルカラ煙草ノ葉ヲ覗イタリ玉蜀黍ノ大キナノヲ珍ラシガッタリシタ位。標本室ニ居タトキカラ片腹イタク感ゼラレタコトモアッタ。是ガ他人ノ勧メデ下車サセタモノデアルナラ、大分不平モ聞イタノデアラウガ、斯ナコトニ過ギナイカラ、下リナト云フノヲ何モ実地ヲ見タコトガナイ、大連ヤ奉天辺ノ人々ノ大袈裟ナ噂ヲ聴キ無理ニ下リテ来タノジャカラ何トモイフコトハ出来ヌ。（中略）奉天ニ着シテカラ一夜更ニ倶楽部ノ高庇ニ与ルコト、ナッタ。ソコデ一応食事ヲモ済シテ病院ノ坪田〈寿男〉ヲ訪ネル。ソレニ就テ今晩ハ最後デアルカラ、同窓ノ中ニ誰カ一人一緒ニ往カヌカト勧メタ結果、斯ウ織田〈信雄〉ガ往クコトニナル。石本〈廣一〉モ長春ヘ行カナンダガ、ヤハリ此クラブニ居ルノデアルカラ此モ同行ノ中ヘハイル。途中デ樺沢其他沿路ニアル一二ノ人々一家ヲ訪ネテ逗留中ノ挨拶ヲスル。病院ニ往テモ先ヅ千頭〈直之〉君ニ逢ウテ挨拶ヲスル。石本〈廣一〉ヨリ坪田〈寿男〉ノ宅ヘ二度電報ヲ発シタト云フコトヲ聞ク。初ニ来ルヤウ云ウテヤッタガ往カレヌ、金送ル、村井〈種一〉ニタノメト云ウテ来タ。ケレドモ少シ不明ノ所ガアッタノデ電文不明病重シスグコイト云ウテヤッタト云フノデアル。他人ノ世話ニハ随分実ニナラヌ所ガアルト思ウタガ、又能ク考ヘテ見ルト、ドレモ皆裕福ニ育ッテ居ル奴等バカリデ奉天マデ看病ニ来ル位ノ費用

ハ問題デナイデ只家ノ者ガ病デ居ル児ヲ放テ置クト云フ純理ノミガ頭ノ中ニ働クノデアラウ。斯イフ所ガ立場ノ違フ人間ヲ交ッテ屢々誤解ノ生ジル点ジャ。其カラ坪田〈寿男〉ノ部屋ヘ往ク。病状変ナシ。但シ下痢ハ止ンダトイフコト。織田〈信雄〉ハソロソロ例ノ詼諧ヲヤリカケル。病人ヲ疲ラス恐レガアルデ大抵ニシテ引上ゲル。

七月十九日…朝食事ガ済ムト直グ宿（注、安東館）ヲ飛出シテ所々ノ見物ニ出カケル。（中略）午後汽車ニ乗ルマデニ少シ時間ガ空イテ居ル。ケレド他ニ格別見タイト思フ所モナイ、ソレニ日ガ非常ニ熱イ、身体ハ能ク気ヲ付ケテ居ルニモ拘ラズ、日一日ト衰弱スル。京城ヘ往ケバ又一人駈ケ廻ラネバナラヌカラ此時間ハ休養ニ充テ、例ノ如ク回想ニ耽ッテ見ルコトニスル。県商ノ卒業生デ何トカ云ウタ人以前カラ高橋〈赳太郎〉君ノ弟子デ我々ノ来タコトヲ大ニ悦ビ昨夜モ来テ道場ヘ一緒ニ行キ帰ッテカラモ暫ク談シ今朝モ予ガ出カケタ後ヘ選手等ヲ方々ヘ案内シ、午前モ予ガ帰ッタトキハ已ニ来テ居リ。午後モ来テ買物ナドノ世話ヲシテクレタ。旅デ受ケル親切ハ特ニ嬉シク感ズルモノジャ。昨年県商ガ野球ニ負ケタ話ナドヲスル。（中略）追々ト出テ居タモノガ帰ッテ来ル。例ノ如ク種々ノ土産物ヲ買ウテ来ル。ト云ウテ別ニ珍ラシイモノハ無イ。絹紬ト翡翠ト岫巖石モアッタ。所ガ今日ハ停車場デ税関ノ検査ヲ受ケルコトニナッテ居ルノデ、煙草宝玉絹物ナドニツキ脱税スル用意ヲ一同一生懸命デヤル。学生ノ方ハ煙草ト翡翠クラヰノモノデ、種々ノ物ヲ買ウテ居ルガ税ノカヽル物ハナイ。煙草ハ一人前百本マデハヨイト云フノヂャカラ、其以上持テ居ルモノハ少カラウ。所ガ高橋〈赳太郎〉老人所々デ買集メタリ又人カラ贈ラレタリシテ沢山ノモノヲ持テ居ル。而モ其ヲ幾包トナク小イ風呂敷ニ包ンデハ提ゲテ居ルノデ汽車ノ乗リ降リ常ニ人ノ厄介ニナラネバナラン。所ガ彼ハ其ヲ以テ人ノ迷惑ニナルト思ハン。学生ノ甲乙ヲ呼付ケテ僕扱ニシテ其ヲ提サセル。学生ヲ云ウテモ其々一人前ノ荷物ハ持テ居ル。人ノ世話マデスルコトハ大ナル迷惑デアルガ、彼ハ其事ヲ考ンノミナラズ、何時デモ自分ハ酔テ居ル。ソレデ又所々デ物ヲ紛失スルコトガアル。ステッキヲ捨テル、万年筆ヲ捨テル、傘ヲ捨テル。マダ何カ革嚢ノヤウナモノヲ捨テタ。所ガ今度ハ其持テル多クノ財ヲ学生ニ分ッテ脱税ノタメニ隠シテ出テクレト云フ。武士道ノ先生ガ人ニ泥棒ヲ教ヘルトハヘナブリニモ価為マイ。学生モ学校ノ教訓ニ重ヲ置ケバ斯イフ依頼ハ拒ムノヂャガ、ソレダケノ気概ハナイノデ、贓品ヲ分タレテ隠スタメニ種々ノ工夫ヲ廻ラシ、ヤット何如ニカシタヤウヂャ。其カラ湯

ガ沸イテ入ル。今日ハ初ニ入ルカラ汚クナイ。湯ガスムト飯ニナル。其飯ガ済ンダ所デ、学生ノ方ニ冷飯ヲ出シタト云フノデ怒ッテヤル奴ガアル。下女ガ来タノデ其ヲ詰ルト、下婢ハ時間ガ間ニ合ハヌヤウデト思ウテ昼ノヲ少シ交ゼタトカ言ウタヤウデアッタ。ケレドモ学生ノ或者ハ其ヲ怒ッテブツブツ云フ。其処ヘ岡田君ガヤッテ来タノデソレニ告ゲル。スルト岡田君モ不都合ナ奴ヂャ。唾ヲ吐イトイテヤレト云フ。学生ノ一人ハ直ニ飯櫃ノ中ニ唾ヲ吐イタ。勿論其時下婢ハ居ラナンダ。下婢ガ飯ヲ持テクルト彼方ヘ行テクレ、勝手ニツイデ食ベルカラトイウテ、何時デモ岡田君ハ返ス。随分徹底シタ客デアル。見下ゲ果タ彼等ニ就イテ何モ論ジマイト既ニ言ウタ。弁ヲ費スニハ余リ明瞭ナ暴悪デアル。然シ学校ノ運動部殊ニ武術部ナド云フモノハ余程考ヘモノデアル。選手ナドハ学課ヨリモ運動ニ狂熱シ、其結果其方面ノ先輩、コーチ、師範ナド云フモノヲ学校ノ教師ヨリモ親ミ且ツ恐レ敬ヒ、教師ノ命ニ服サヌ奴デモ彼等ノ言フ所ニハ従フト云フヤウニナッテ居ル。所ガ比類ノ人物ニ碌ナモノハ少イ。酒ハ勿論飲ム。虚言モイフ。喧嘩モヤル。紳士的徳行ト云フ方カラ見レバ絶対ニ相反スル奴デアル。デ学生ヲ誘惑シテ然イフ仲間ニ引入レルコトハ無論デアルガ、時トスレバ之ヲ煽動シテ学校ノ規定ニ反スルヤウナコトヲモ敢テサセテ憚ラン。殊ニ武術ノコーチニナッテハ、之ヲ教師トシテ師弟ノ交リヲナスノデアル。学校ノ教訓ハ常ニ此以而非、教師カラ裏切ラレルコトニナル。学校ノ管理者ハ此点ニ向ッテ警戒セネバ、千日ノ説法モ一日ノ屁トナッテ忘レラレル結果ヲ来サウ。宿屋ノスルコトニ於テモ此安東ニ於テハ甚ダヨクナイコトヲ見ル。（後略）

七月二十日…原金ノ四階住居ハ初メ苦ニシタホドデモナカッタ。第一気ニ懸ッテ居タ湯ハ人ノ少イ中ニト言ハレテ往テ見ルト誰モ居ラン。（中略）偖（さて）弥々床ヲ延ベテ寝ルト云フ段ニナッテ困難ガ生ジテ来タ。六畳二間ノ中ニ小クテモ銘々ノ手荷物ガ山ノヤウニ積ンデアル。其残リノ開間ヘ九人ノ寝床ヲ取ルノデアルカラ、出来ルダケクッツケテ順ニハ敷カレヌ。頭ノ上ニモ横ニ向ケテ一ツノ床ガ延ベテアル。ソレデ予ヤ高橋〈赳太郎〉君ノヤウナ老人モ荒クレタ青年ノ仲間ヘ一緒ニモグリ込ンデ寝ルコト、ナッテ居ルノデアルガ、コレハ甚ダ堪ラヌ。小言ヲ云ウテ遂ニ頭ノ上ノヤツダケハトラセ、其他一人二人他ノ間ヘ殖民サセルコトニシテ一應ハ治ッタガ、油断ノナラヌノハ其床ヲ延ベニ来タ二人ノ下女ガ其トナシニ学生ヲ誘惑シテ居ルコトジャ。其時多クハ例ノ買物ニ外ヘ出テ居テ二人ハ既ニ寝テ居リ二人ダケ起キテ居タ。高橋〈赳太郎〉老人モ知己ノ所ヲ訪ハ

レテ不在。スルト下婢ノ奴ガ戯言ニ任セテ種々ト彼等ノ気ヲ動スヤウナコトヲ云ウテ居ル。場所ガナイカラ、オ二人ダケ下ノ女中部屋ヘ来テ私共ト一緒ニ寝テ下サイトカ、何トカ、スルト二人ノナマ学生ハ蛙ガ電気ニ打タレタヤウニ、一時ニピリット窒息状態ニ陥リ、次デ俄ニ陽気ダッテ詰ラヌコトヲ浮レ上ッテ諜言ル、立テ撃剣ヲツカフ真似ヲスル、其心理状態ヲ読ムコトニ馴レタ彼等ハ孔明ガ敵軍ヲ誘キ出スヤウニ横カラ見テ居レバ気ノ知レタヤウナ、竪カラ受身ニナッテ見レバ次第ニ興ガ増シテ来ルノトシカ見エヌ。浮カシテ置イテ浮カサレタヤウナ振ヲスル。何ノ邪心モ無イカノヤウニ見セカケテノ状々ノ手管ヲヤル。横丁ノ窓カラ向フノ家ニ蓄音器ヲ鳴ラシテ騒イデ居ル憲兵ト云フノガアル。学生ヲ招イテソレヲ、一緒ニ窓ノ所ニ見ニ往ッタリ、又其憲兵ガ招イタト云フテハ可笑シクモナイコトヲ、コケルヤウニ笑ウテ見タリ、別ノ間ヘ少シ分レテ寝ルト云フコトモ、初ハ其間カラ縺レ上ッタ相談ト見エル。然シ斯ト見タ予ハ床ヲ延ベテモ端座シテ寝ズニ凝ト彼等ノ様子ヲ見テ居ッタ。機会ガアッタラ一ツ怒鳴ラウト思ウテ待ッテ居タノデアル。スルト浮レタ馬鹿者ノ心ヲ読ムニ慣レタ下婢等ハ又気ムツカシイ老人ノ気ヲ見ルニモ鋭イノデ、其以上ニハ何事モスルコトガ出来ズ、学生モ多少良心ノ威嚇ヲ受ケル所ガアッテ、初ハ其二人ガ別ノ間ヘ行ウト戯言ニ任セテ言ウテ居タガ、事実トナッテ現ハレテ痛棒ヲ下サレルマデニハ進マナンダ。何時ノ程ニカ又議ガ変ッテ四人ホド寝床ヲ移スト云フコトニナッテ話ハ真面目ニ返リ下婢モ下ノ方ヘ行ッタ。親ヤ教師ガ高麗焼ノ茶碗ノヤウニ大事ニシテ手ニ入レ、箱ニ入レ、傷ヲツカセマイト思ウテ居ル青年ヲ斯イフヤウニ又横合カラ牙ニカケウトスルテンゴチトイフモノガアル。心ノ定マラナイモノニ旅ハ実ニ禁物デアル。有為ナ人物ガ之ニ由テドレダケ身ヲ誤ラレルカモ知レン。甘ウテモ辛ウテモ人ノ心ヲ締メルモノハ其々ノ教訓デアルガ、郷関（きょうかん）ヲ出ルト、ソレハ割合ニ少イ、其反対ニ酒ノヤウナ女ノヤウナ人ノ心ヲ蕩スモノガ自由ニ流レ歩イテ居ル。支那ノ娼婦ガ旅館ヘ侵入スルノハ愚カ旅館ノ下婢ト云フヤツハ其ヲ目的トシテ来テ居ルノガ多イ。給金ハ無シニシテ夜ヲ自由ニ稼ガセテ貰フ約束デ来テ居ルノガアル。所ニ由ルト然デモナイガ又或所ハ其ガ実ニ甚シイ。況ヤ遠ク満州ヤ朝鮮マデモ下女奉公ニ来テ居ル奴ハ大抵一筋縄デ遂ヘヌヤウナ代物デアル。学生ナドノ決シテ旅ヲシテ来ベキ所デハナイ。斯イフ風デ兎ニ角安心ノナラヌ枕ニ着ク。（後略）

七月二十一日…今晩ハ武徳館デ、朝鮮料理ノ饗応ヲ受ケルト云フコトニナッテ居ル。湯ニ入リ身ヲ洗フトスグ陣

〈之〉内〈康雄〉氏ガ迎ニ来テ出カケル。（中略）一同ハ此館ニ来テ先ヅ一杯ヅヽ、葛湯ヲモラヒ、其カラ地稽古ヲヤル。初ハ小児相手ノ打込カラ段々ト進ンデ上弟子ニ替リ終ニ例ノ如ク師範カラノ稽古ヲ受ケル。其カラ何新聞カヾ来テ写真ヲ撮リ、ソレデマヅ此道場許デナイ、今回旅行ノ番組ニアル総ノ試合ヲ打留メル。次イデ湯ニ入リ其カラ主人ノ饗応トシテ何処カノ朝鮮料理ヘ伴ハレルコトニナッタ。此朝鮮料理ニ就テハ少カラヌ行違ガアッタ。実ハ今日講習所デ今晩夕食ニソレヲ上ゲタイカラト云フノデアッタガ、是迄困ッタ経験モアルカラ学院ノ生徒ハ酒ヤ煙草ヲ服マヌコトニナッテ居ルノデ食物ダケヲ出シテ貰フヤウニトヨク頼ンデ置イタ。ソレデ朝鮮料理ト云ッテモ料理屋ヘ往クノデハナイ、長春ノ支那料理ノヤウニ試合前ニ一寸陣〈之〉内〈康雄〉氏ノ宅デヨバレルモノトバカリ考ヘテ居タ所ガ、宅デハ葛湯ヲ貰ウタヾケデアッテ試合ガ済ンデカラ別ニ斯シテ料理屋ニ伴ハレルノデアル。コイツハ甚ダ変ジャト思ウタガ仕方ガナイ。準備ノシテアルモノヲ断ル訳ニハ行カヌ。行ク所マデ行テ見ヨウト思ッテ載セラレル侭電車ニ乗ッテ黄金町ヲ右ニ向ケタガ、其カラハ何処ヲ何如通ッテ何処ヘ来タノカ全ク分ラン。少クシテ電車ヲ下リルト路ノ左側ノ空地ノヤウナ所ニハイルト此辺ニハ地ノ上ヘアンペラヲ敷イテ幾人モ人ガ寝テ居ルノデ迂ッカリ小便モ出来ヌ。然シテ又狭イ暗イ路次（ママ）ニ入テ一旦右ニ折レ、ソレカラ又左ニ折レルト門モ何モナイ足軽屋敷ノ玄関位ノ入口ガアルノガソレジャト云フ。ソコデ先ヅ履物ヲ預ケテ三尺位ノ通路ヲ折レ曲リツヽ、行クト家ノ内ハアチラカラモ此方カラモ高声デ変ナ追分節ノヤウナ歌ヲ謡ウテ居ルノガ聞エル。奥ヘハイルト廊下ニ沿ウテ日本ノ昔ノ六銭牛肉屋ノヤウナ狭イ間ガ幾個モ並ンデ居ルノガアッテ其歌ヲ唱フ奴ハ其内ニ仰サマニナッテ居ルト云フヤウナ有様。我々モヤガテ其中ノ一間ニ入レラレル。奇妙ナコトハ其部屋ニ入口ト云フモノガナイ。大キナ窓ガ二ツアッテ其ヲマタゲテハイルノデアル。而シテ中ハ板張リデ上ニ渋紙ヲ敷イタヤウナ所、其下ハ無論例温突（オンドル）ニナッテ居ルノデアル。冬来ネバ興味ガナイト誰カヾイウタ。成程コノ牢ノヤウナ室ノ中デ骨ノ片側ニ紙ノ張テアル蝋引ノ朝鮮団扇ヲペロ〳〵トハタクノデハ、マルデ天麩羅屋ノ丁稚ニデモナッタヤウナ気分ガスル。（中略）然シ予ハ今晩甚ダ不愉快ニ感ジタト云フノハ前ニヨク酒ヲ出サヌヤウニト云ウテ置イタニ拘ラズ、矢張リ麦酒ヲ出シタコトジャ。斯イフコトハ朝鮮料理ノ趣意ニモ協ハス、饗応ノ真精神ニモ矛盾スル。日本馬鹿ノ生賢ラト云フモノヂャ。出サレ、バ又悦デソレヲ飲ム奴モ脳髄ノ無イシャボ

ン玉ノヤウナ不生物ト云ハネバナランガ、幾度モ此イウ攻撃ヲスルノガ馬鹿、、シイカラ、今ハ止メル。其中ニ妓生ニ画ヲ書カスト云フノデ白扇子ヲ一把硯ヤ墨ト一緒ニモテ来ル。妓生ハ其竹ヤ梅ヤ山水詩句ト云フヤウナモノヲ書クガ、中々巧ク書ク。然シ然シテ書イテ居ル間ニ段々ト時間ガタツノデ、高橋〈赳太郎〉老人ニ帰ルコトヲ促シテ見ルニ帰ラウト云フコトヲ明白ニ云フ。スルト老人ハ彼方此方ニ気兼ヲシテ其ナラ、オ二人デ先ヘ帰リマセウカト云フ。予ガ帰ラウト云フノハ強チニ自分ガ帰リタイト云フノデハ無イ。予ハ其コトヲ彼ニ答ヘテソレカラ生徒ニ向ヒ、夜ガ更ケタ。モウ大抵ニシテ帰ラウト云フト、元来ハ明日ノ朝マデモ帰リタクナイ彼等ハ大恐惶ヲ感ジタヤウニ、其一人ハ何ナラ先生一足オ先ヘ、私共ハモ一ツ書イテ貰ウテ帰リマスカラト云フ。馬鹿ヲ云ヘ。監督ニ来テ居ル予ハオ前等ヲ斯イフ所ヘ残シテ置テ一人デ帰ルモノト思フカ、ト云フタノデ興モ酔モ覚メタト見エテ、ソレカラ直グ字ヲ書クノモソコソコニシテ切上ゲルコトニナッタ。〈後略〉

七月二十二日…此地方ノ人々ガ案内シテ京城ヲ見物サセルト云フ。八時頃ニ案内スル人タチガ尋ネテ来ルト云フコトニナッテ居タガ、昨夜遅クナッタノデ何如デ、アラウカト思ウテ居ル中龍山ノ宮田〈守衛〉君カラ電話ガカ、ッテ来ル。予ノ来タト云フコトヲ新聞デ見テ驚イタ。訪ネタイガ何時頃居ルカト云フノデアッタノデ午後三時ニ待テ居ラウト答ヘタ。其中ニ外ノモノモ起キテ来テ朝飯トナル。予ハ其際彼等ノ昨夜ノ不始末ニ就テ八釜敷クイウタ。飲酒喫煙ニ害ガアルトカ無イトカ云フヤウナ議論ハ幾等イフテモ分ラヌ奴ニ分ラセルコトハ六カシイ。其話ハ別トシテ彼等ハ何ヨリモ入学ノトキ飲酒喫煙ヲスマイト誓ウテ居ルノデアルカラ、其誓ハ守ラネバナラヌ。人ガ饗応シテクレルモノヲ飲マネバ無礼デアルト云フヤウナコトヲ云フテヲル奴ガアルガ、ソレナラ其同ジ道理デ君等ノ天性キライナモノヤ病気カ何ゾデ絶対ニ食ハレヌモノヲ出シタトキソレヲ食フカ、ソレハ嫌ダカラ食ハヌ。病気ノタメニナランカラ食ハヌト云ヘバ、飲食セズト誓ウタモノヲ飲食スルノハ男ガ約束ヲ反古ニシテ信ズルニ足ラヌ奴。節操ノナイ幇間ノヤウナ奴ヂャト見做サレルノガ酒呑ノ牡丹餅ホドモ嫌デナイノカ、精神ノ権威ヲ殺シ人格ニ止メヲカス行為ヲ胃病ホドニモ思ハンノカ、男ガ一度誓ウタコトハ肉体ヲ害スル毒物以上恐ルベキモノデハナイカ、ソレカラ彼ノ芸者ノヤウナモノニ接近スルノハ学生ナドノ為スベキコトデナイ、知ラヌ顔ヲシテ取合ハズニ居レバヨイト云フト或奴ガ芸者デハナイ、キーサン（ママ）デセウト云フ、기생ト云フノハ妓生ノ鮮音

デ妓生ト云フノハ芸者ノコトヲ云フ朝鮮ノ称呼デアル。何モ別ニ尊敬スベキモノデハナイ。低能ノ奴ハ何処マデ往テモ低能ジャト小言ヲイフテ居ル所ヘ龍山ノ中村〈金次〉君ガヤッテ来ル、（中略）加登精吉ト云フ学生ガ尋ネテ来ル。是ハ全ク意掛ノナイコトデアル。坪田〈寿男〉ノ宅カラ頼マレテ奉天ヘ看護ニ行ク途中デアルト言ウタ。坪田〈寿男〉ノ内ノ事情モ一通リ聞イテ分ッタ。然シ何如イフ考カ、同ジヤウニ学生ニ頼ンデ置クノナラ石本〈廣一〉デ可ササウニ思ハレル。イラヌコトヲシテ余計ナ金ヲ使フタモノデアルト思フ。（後略）

七月二十四日…今朝船ノ食事ヲシタモノガ予ノホカニ一人モナイノデ其前近傍ノ何トカ云フ飲食店ノ二階ニ上リ込ンデ最後ノ朝飯ヲ食フコトニスル。終ノ晩餐ガ神聖ナモノデアッタ代リニ是ハ悪魔ノ跋扈ヲ始メル木戸口カモ知レン。或者ハ予ガ眼ヲ偸（ぬす）ミ下ノ店先デ麦酒ノ栓ヲ抜キ頻ニヤッテ居タ。高橋〈赳太郎〉老人ニモソレヲ勧メル。老人モ受ケテ飲ンデ居タ。姿ハ隠レテモ声ハ段梯子ヲ登ッテ来ル。是迄モ種々ノコトニツキ、殊ニ最近京城以来ハ予ガ姪ヲ訪ネタイト云フタニツケ、成ルベクハ予ヲ勧メテ彼等ト別レシメヨウトシテ居タモノガアル。予ヲ離レテ単独或ハ二三人ノ組ヲシテ知人ノ所ヲ訪ネ無遠慮ニ杯ヲ挙ゲテ居タラシイモノモ幾回カ目ニツイタ。前ニモ言ウタガ奉天カラ長春ヘ行ク時ニ当リ、一二人発車ノ際マデモ帰ッテ来ズ、坪田〈寿男〉ニ就テ相談ナドモアッタ際、大ニ困ラセタコトモアル。是カラ自由行動ヲ取ルノハ彼等ヲシテ彼等ノ道ヲ行カシムルコトニナルノデアラウ。ケレドモ幾度トナク訓戒シテ聞カヌモノヲ此以上何トモスルコトハ出来ヌ。安東デ送ラレタ麦酒モ朝鮮ノ宿デ何時ノ間ニカ一本口ガ抜イテアッタノヲ見タ。然シ他ハ其侭ニナッテ居タガ何ウシタノカ、多分銘々ガ分ケテ行李ノ底ニ納メテ持ッテ出タデアラウ。妓生ガ書イタ扇子モ其後影ヲ見セヌガ何時ノ間ニカ相分チテモッテ居ルデアラウ。食事ヲ済マシ解散シテ十時二十分デアッタカ三等急行ニ乗ル。高橋〈赳太郎〉老人モ学生ノ中デハ脇田〈徹夫〉網谷〈繁雄〉ノ二生此汽車デ一緒ニ帰ル。（中略）神戸ニ着クト高橋〈赳太郎〉老人ト学生二人ハ此処デ下リル。其後デ例ノ一行、脇田〈徹夫〉ト網谷二人ニ就テ頻ニ歎賞シテ居ッタ。謹虔ナ態度デ鋭敏ナ眼光ヲ以テ何処ノ学生デアラウ。途中ノ談デハ満州カラ帰ッタラシイガ、何カノ視察ニ往タノデアラウ。一人ノ男ガ〈神戸〉高等商業ノ生徒デハナイカト云フト、イヤサウデハアルマイト云フ、予ガ一人残ッテ居タコトヲ知ラナカッタノデアル。（後略）

〈剣道部遠征感想終リ、以下通常ノ日記ニ移ス〉

七月二十六日　月　曇後晴　腰痛ム、朝兵庫ニ行キテ坪田ヲ訪ネ病人ノ様子ヲ話ス。（後略）

七月三十一日　土　晴　午後遊園地ニ野球[16]ヲ見ニ往ク（中略）其ヨリ関西〈学院〉ト御影師範二十二対〇、五回ゲームニテ済ム。

八月一日　日　晴　（前略）午後関西〈学院〉甲陽ヲ十対〇ニテ破リタル由、今日ハ外出セズ。

八月二日　月　晴　午後関〈西学院〉中〈学部〉ト神〈戸〉商〈業〉ノ試合ヲ見ニ往ク。四対一ニテ勝ツ。

八月三日　火　晴　午後優勝戦、神港〈商業〉トヤル、昨日ノヤウニハナイダレタル試合、八対二ニテ勝ツ。二点ヲ九回ニナリテ敵ニ取ラセタルハ故意ナルベシト思ハル。（後略）

八月四日　水　雨風ハゲシ　夜自修寮ニ野球部ノ慰労会アリテ往ク。

八月八日　日　晴　ハミル館ニテ堀〈峰橘〉氏ノ代リニ談ヲスル、先日ヨリ腹工合悪カリシガ今日ハ朝ヨリ烈シク下痢ス。（後略）

八月九日　月　雨後晴　（前略）坪田〈寿男〉死去ノ電報来リ石本〈廣一〉ヲ尋ネ兵庫ヲ訪ウテ帰ル。

八月十四日　土　晴　鳴尾ニ全国野球大会始ル。関西〈学院中学部〉松本商業ヲ六対〇ニテ破ル。（後略）

八月十七日　火　晴　〈村上〉謙介〈村上〉槙三ト共ニ鳴尾ニ行ク桑原〈虎助〉ハ後ヨリ来ル、一勝者戦関西〈学院中学部〉愛知〈一中〉ヲ五対三ニテ破ル。澤〈昇〉肩ヲ痛メ五回以前ハ辻〈昇〉投手ナリキ、三点ハ其時失策アリテ得ラレタルモノ。（後略）

八月十八日　水　晴　（前略）関西〈学院中学部〉十四対三ニテ鳥取〈中〉ヲ破ル。坪田〈寿男〉遺骨今夜七時頃兵庫駅ニ着クト聞キシガ、腹工合、汗疹（あせも）ノ工合悪カリシヲ以テ行カズ。

八月十九日　木　晴　鳴尾ニ優勝試合アリ、〈村上〉謙介〈村上〉槙三及ビ桑原〈虎助〉ト共ニ行ク。十七対〇ニテ慶応〈普通部〉ヲ破リ〈関西学院〉中学部優勝ス。人多ク迚（とて）モ電車ニ乗レザルヲ期シ武庫川マデ歩ク。帰レバ甘党主人ヲ第一ニ関西〈学院〉門前ノ家々国旗ヲ出シテ祝賀セリ。

八月二十日　金　曇東風強シ夜雨　坪田〈寿男〉ノ葬式[17]アリテ往ク。午後三時過宅ヲ出デ永沢町黒住教会ニテ式アリ。野球祝捷茶話会アリテ案内ヲ受ケシガ行ク能ハザリキ。

八月三十日　月　晴　桑原〈虎助〉、〈村上〉槙三ヲツレテ豊中ニ行ク。関西〈学院高等部〉山口〈高商〉ト優勝試

合四対一ニテ勝ツ。

九月十一日　土　晴　今日始業式。

九月十三日　月　晴　チャペル商科ト合同、松本〈益吉〉氏ノ談アリ、〈W・E・〉タウソン夫人ニ会フ。（後略）

九月十四日　火　曇　〈C・J・L・〉ベーツ氏文科ノチャペルデ談ヲ為ル、自然ニ生キントシテ道徳生活ニ反対スルモノモアルガ自然主義ハ人為主義ニ勝ルト雖モ猶未ダ漠然タルヲ免レズ。吾人ハ自然ノ醇ナルモノニヨリテ生キザルベカラズ、トイフヤウナ所カラ、詩人ハ怠惰者ナリ。ブラウニング[18]ノ如キ少シク謹厳ニ字句ヲ案ジテ筆ヲ取リタランニハ、ヨカルベキニ勝手ニ書キマクッテ不明ニ陥レリト或大学教授ガイヘリナドノ言アリ。（後略）

九月十六日　木　晴　（前略）堀〈峰橘〉氏教会ニ出デザルヲ以テ、文科ノチャペルデ話ヲスル。蚯蚓（みみず）ハアノ体デ以テ如何ナル所ヲモ土壌化シ、自己ノ棲ミ得ル所トス、人間ハ其心志ノ鍛ヘラレンガ為ニ大功ヲ立ツルモノホド初ハ困難ナル境遇ニ置カル、サレドモ意思堅ケレバ何ゾ之ヲ我ガ為ニ有利ノモノト為シ得ザラントイフコトヨリ文科ノ発展ニ努力スベキコト、並ニ現代ノ社会ニ対シテ其大ニ必要ナルコト、ヲ談ズ。

九月十七日　金　晴　チャペルノ時間ニ坪田寿男ノ追悼式ヲヤル、村井〈種一〉ト深山〈盈二〉ノ話ノ後、予モ話セヨトイフコトニテ話ス。坪田〈寿男〉ハ学力モ人物モ知ラヌガ剣道ニ於テハ大ナル技倆ヲ有シタルコト、天命ノコト、天命ニハ天意アリ、之ヲ考ヘ学ブコトハ天ヘノ忠義、坪田〈寿男〉ノ霊ヲイタヾクノ所以ナルコト、坪田〈寿男〉個人ノ霊ニ就テハ問題ナキコト、寿夭窮達トイフモ蟻ノヤウナ人間ノ眼カラノコトニテ天ノ大ヨリスレバ一毫ニモ当ラヌモノナルコト等ヲ談ズ。（後略）

九月十八日　土　晴　午後三時ヨリ松本〈益吉〉氏宅ニテ神学部親睦会、松本〈益吉〉氏米国デ見テ来タ所ヲ一人デ話ス。而シテ近時米国ニ於ル教会ノ努力ハ社会事業ト教育トニ集レリトイフヤ、〈J・C・C・〉ニュートン氏霊的運動モ盛ナリトイヒテ一波瀾ヲ起ス、予教会ハ社会ヲ捨テ、個人ヲ救フ能ハズ、個人ハ社会ノ中ノ個人ナリ、故ニ個人ヲ救ハントスルモノハ又社会トモ戦ハザルベカラズ、社会ヲ忘ル、ノ教会ハ死物トナルトイヒタレバ、事熄（や）ム。（後略）

九月二十二日　水　晴　午後三時ヨリ美加登[19]対〈関西学院〉高等部ノ野球戦ヲ見ル、高等部大ニダレテ失策続出。四対一ニテ敗、敵投手マッケーハ職業家ノ雇兵ナリト聞ク。

九月二十三日　木　晴　（前略）庭球大会御影〈師範〉

優勝。（後略）

九月二十四日　金　晴　記事ナシ（夜柴田ノ追悼会、第二寮ニテ）。

九月二十六日　日　晴　カナダノ医師某及大成運動委員藤林氏ノ話アリ。（後略）

九月二十八日　火　晴　（前略）朝神学部デ活動写真ヲ取ル、午後ハミル館デ記念式。

九月二十九日　水　曇　午後神学生休ミ。

九月三十日　木　雨　（前略）今日電車青木ニテ衝突[20]、死者三名、学院生徒内藤平松負傷、夜〈村上〉槙三ヲツレ東明病院ニ見舞フ、但シ帰宅後ナリキ。

十月一日　金　晴　夕刻青谷方面ヲ散歩シテ帰ル、〈H・F・〉ウヅウォース夫妻ニ逢ヒ〈C・J・L・〉ベーツ氏一族ニアフ。

十月二日　土　晴　朝講堂ニテ談ヲスル、平松ノ義心ヲ賞シ犠牲的精神ノ必要ナルコトヲ説ク。（後略）

十月五日　火　晴　神学生皆東京ニ往キテ科業ナシ。（後略）

十月六日　水　晴　（前略）午後中学部ト布哇（ハワイ）〈旭倶楽部〉ト遊園地ニテ野球七対四ニテ敗一回ニ詰ラヌコトニテ四点トラレタノガタヽリ。

十月七日　木　晴　高等部試験始ル。

十月十日　日　晴　朝学院教会ニテ突然話ヲスル。（後略）

十月十一日　月　晴　石本〈徳三〉氏ニ〈J・C・C・〉ニュートン肖像[21]ノ金五十銭渡ス。午後藤井氏ト道連ニナリ上野マデ散歩。（後略）

十月十二日　火　晴　〈H・F・〉ウヅウォース氏ヨリ〈村上〉謙介ノ奨学金ヲモラフ。午後教師会議、■■（伏字）ガ狡猾ナコトヲシタノデ六ヶ月ノ停学ニキマル、極メタ人ハ勿論ノヨリサボル先生等。

十月十三日　水　晴　今日試験スム。（後略）

十月十四日　木　晴　試験休ミ。（後略）

十月十五日　金　晴　午後二時半ヨリ〈C・J・L・〉ベーツ氏授任式[22]、五時四十分マデカヽル、夜オリエンタルホテルニテ宴会。帰リテ寝タルハ十一時ヲ過ギタリ。（後略）

十月十六日　土　晴　学院記念運動会、朝式ナカリシヲ以テ割合ニ早ク済ム。夜平賀〈耕吉〉、中西〈末造〉訪来。

十月十七日　日　晴　奥平野ニ往キシガ赤沢〈元造〉氏ノ説教ニ成リ居タルヲ以テ帰リ、学院教会ニチャウン氏[23]ノ話ヲ終ノ前頃カラ聞ク、ガウンヲ被リタリ。（後略）

十月十八日　月　晴　田中〈義弘〉ニ平賀〈耕吉〉ノ同窓会入会金五円ヲ渡ス、石本〈徳三〉ニ平賀〈耕吉〉中西〈末造〉二氏ノ肖像寄付、一円五十銭ヅヽヲ渡ス。（後略）

十月二十二日　金　曇後晴　（前略）夜〈H・F・〉ウヅウォース氏宅ニ於テ池田〈多助〉氏ノ送別会アリシガ断リニ往キ出席セズ。

十月二十九日　金　晴　午後全満州〈鉄道〉ト庭球試合アリ。出席ダケ取リテ作文ノ課業ヲ休ム。（中略）夜志賀〈勝〉氏来訪。

十月三十日　土　晴　午前八時半ヨリ〈教育〉勅語発布三十年記年ノ祝賀式アリ。〈C・J・L・〉ベーツ司会、土谷〈旗太郎〉ノ旧約、〈W・K・〉マシウスノ新約、窪田〈善仁〉ノ祈、松本〈益吉〉ノ話、勅語ノ趣意ハ聖書ニモアリトイフ。ソレナラ何デ勅語発布ガソレホド重大ナ意義ヲ持テ居ルカト問ヒタクナルガ何モ注意スルニ足ラン話デアッタカラ止メテ置カウ。明治二十年頃欧化主義ノ反動トシテ政党ニハ帝政黨ガ生レタハドウジャ。（後略）

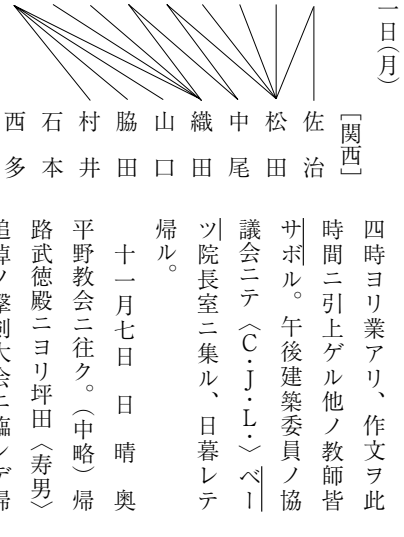
十月三十一日　日　晴　十時カラ礼拝説教トイフモノガアル。拝賀デハナイカラ一寸時間ガ切レテ往ク。西洋人ガ歌ヲ唄ウテ居タ。其カラ田中〈義弘〉ノ説教、何ノ事カ考ヘテ見ネバ分ランデ知ラヌニシテ置ク。嘘ノ歴史、其カラ今朝ノ朝日ノ論説モ大分入テ居タ。勅語ノ捧読ハ無カッタ。午後、香坂せいじ（ママ）氏来訪、東亜汽船ニ居ルトイフ。

十一月一日　月　雨　明治神宮鎮座式、チャペルデ式ガアル。松本〈益吉〉司会、旧約菊池〈七郎〉、新約外橋[24]、祈祷真鍋〈由郎〉、講演〈C・J・L・〉ベーツ、河上〈丈太郎〉二氏、其前ニグリー・クラブノ歌アリ。其後三高ト撃剣ノ試合、先方カラ電報デイウテ来テ急ニ極ッタモノ、審判千葉氏。（後略）

十一月五日　金　晴　皇太子殿下昨夜京都二条城ニ御宿泊。今朝十時神戸駅ヨリメリケン波止場ニ行啓、軍艦御搭乗ニツキ生徒ト共ニ見送ル。四時ヨリ業アリ、作文ヲ此時間ニ引上ゲル他ノ教師皆サボル。午後建築委員ノ協議会ニテ〈C・J・L・〉ベーツ院長室ニ集ル、日暮レテ帰ル。

十一月七日　日　晴　奥平野教会ニ往ク。（中略）帰路武徳殿ニヨリ坪田〈寿男〉追悼ノ撃剣大会ニ臨ンデ帰

十一月一日（月）



ル。武徳会ガシテ招イタノジャトイフコトデアッタガ、往テ見レバ嘘デ学院剣道大会トナッテ居ッタ、尤モ中学部モ聯合デ田中〈義弘〉ガ許可シタトイフノジャカラ黙シテ居ラウ。斯ナ事ナラ往クノデハナカッタ。尤モ予ハ同部顧問ヲ辞スルヤウニ已ニ言ウテアリ。何事ニモ相談ハ受ケヌノデアルカラ、責任ハナイ。

十一月八日　月　晴　午後志賀〈勝〉生ヲ訪フ。（後略）

十一月十二日　金　晴　（前略）本日講堂ニ於テ小談ヲ為ス、生命ニ充実スベシトイフ題ニ就テ。

十一月十三日　土　晴　全国学生雄弁大会ヲ高等部チャペルニ聞ク、昼夜トモ非常ノ盛会。小寺〈敬一〉氏結婚披露ニテオリエンタルホテルニ招カレテ往ク。三越ノオーケストラ・西洋料理耳ト口（くち）トニ、ソレカラダリヤノ花鉢等無論目ニモヨバレテ帰ル。（後略）

十一月十五日　月　晴　血痰出デ朝ノ一時間休ム。（後略）

十一月二十二日　月　曇、チャウン博士ニ見セル為ニ礼拝ヲ合併サセラレル。部長ノ命トイフノジャカラ仕方ナイガ、部長トイフモノハ分ランコトヲスルモノジャ、何ベンモイウテアルノニ。

十一月二十三日　火　晴　朝弓術大会ヘ往キ岡口トイフ師範ガ礼射ヲヤルノヲ見タ。弓ハ大成効（ママ）デ尺二的一等ヲ増田、二等ヲ大石〈兵太郎〉ガ取ル。金的モ川崎〈金一〉ガ命中シタ。布引倶楽部トノ庭球、〈神戸〉高商トノ野球ドチラモ負ケル。

十一月二十四日　水　曇　三年ノ漢文ガ時間ガ変ッテ一時間ニナッテ居タノヲ忘レテ居ルト呼ニ来テ行ク。ソレカラチャペルデ誰モ話ス人ガ無イトイフノデ司会カラ話マデヤル。話ヲ用意シテ居ランニ、ソレヲ用意スル五分ノ間ガ無イ。全ク口ヘ出ルマヽニ話スノハツラカッタ。午後ハ教師会議トイウテ呼出サレ、詰ラン感ジ話ノヤウナコトヲ聞カサレルノデ二時間カヽッタカラ御免ヲ蒙ッテ帰ル。

十一月二十五日　木　曇、学院カラ帰ルト林彝彦ガヤッテ来テ居テ暫ク話ス。（後略）

十一月二十八日　日　晴　朝江原〈素六〉翁ノ話アリ。（後略）

十一月三十日　火　晴　（前略）午後二時ヨリハミル館デ釘宮〈辰生〉ノ話ガアル。（後略）

十二月一日　水　晴　朝講堂ニテ小平〈国雄〉ト云フ神田教会ノ牧師ノ話アリ。腰痛ハゲシク午後釘宮〈辰生〉ノ談アリシガ往カズ。

十二月二日　木　晴　講堂ニテ日野原〈善輔〉氏ノ談ア

リ。午後釘宮〈辰生〉氏ノ集リニ出デタルガ腰痛ニテ帰ル。

十二月六日　月　晴　（前略）今日ヨリ高田保馬[25]氏ノ講義アルニツキ二時間ヨリ四時間マデ二三年休トナル。一年四年常ノ如シ。午後松本〈益吉〉氏宅ニ高田〈保馬〉氏ヲ訪フ。

十二月七日　火　雨、（前略）午後高田〈保馬〉氏歓迎ノ茶話会ヲハミル館ニ行フ、行ク。

十二月八日　水　曇　学生会館ニ広島友国会アリテ往ク。

十二月九日　木　曇　午後神学部ニ高田〈保馬〉氏ノ談話アリ、往カズ。

十二月十一日　土　曇　午後高田〈保馬〉氏ヲ灘ニ送ル。真鍋〈由郎〉氏ノ宅ニ娯楽会アリテ往ク、台帳ニ姓名ヲ書カサレ、蝉丸ヲ一ツ謡ウテ帰ル。

十二月八日（ママ）　日　雨　教会説教堀〈峰橘〉氏、ダビデノ悔改ニツキ無味乾燥ノ話ヲスル。今日阿弥陀如来ノ講義ヲ書クノデ忙シク夜ニ入ル。

十二月二十一日　火　曇　午後三時ヨリ総務会アリテ出席ス、一日祝賀式ノコトヲ議ス、他ハ纏リタルモノナシ。

十二月二十二日　水　曇　商科今日急ニ終業ス、文科ハ従ハズ。

十二月二十三日　木　晴　文科今日マデ業アリ、学生全部出席ス。（後略）

十二月二十四日　金　晴　学院教会自修寮ニテクリスマス。（後略）

十二月二十六日　日　晴　教会堀〈峰橘〉氏説教、我等ノ日ヲ数フルコトヲ教ヘテ智慧ヲ得シメヨトイフ聖談。（後略）

大正十年

一月一日　土　晴午後曇　（前略）吉崎〈彦一〉旧約、〈W・K・〉マシウ〈ス〉新約、堀〈峰橘〉祈祷、真鍋〈由郎〉ノ話、松本〈益吉〉ノ勅語ガ其前ニアッテ式済ム。商科ノ方デハ式ノ時間ヲ通知シナカッタトイフノデ、教師モ生徒モ多ク集ラズ、神学生モ集ラズ、式ノ後神学部図書室ニテ茶菓ノ饗アリ。（後略）

一月三日　月　小雨　（前略）関〈西学院〉高〈等部〉ト早〈稲田〉大ト野球ガアッテ、ノゾイテ見ル。山口ノ投手デ三回ニ二点トラレル、四回ノ中途カラ澤〈昇〉ニ代ッタガトウトウ九対一デ大敗モ少シ打テネバ駄目ジャ。（後略）

一月四日　火　晴午後曇　午前雑用アリ。午後関〈西学院〉高〈等部〉対法政〈大学〉ノ野球ヲ見ル。投手澤〈昇〉

七対五ニテ勝ツ。〈法〉政〈大学〉ノ得タル二点ハ馬鹿ラシキ投手失策ニヨル、我得タル一点モ三、本ノ間ノ挟撃ニテ当然死スベカリシモノヲ球ヲ落シテ生ジタルモノナリ。（後略）

一月五日　水　晴　（前略）講義支那宗教ノ残リヲ、輯シ終ル。（後略）

一月十日　月　晴　高等部今日ヨリ業アリ、学生殆ド皆出席ス、日曜学校大会々場タリシタメ教室スベテ穢レ紙屑、パンノ屑等散乱タリシハ我々ノ迷惑ノミナラズ彼等教師ノ人格ヲ想ハシムルモノトシテ取ラズ。礼拝ニ於テ始ヲ慎ムベキコト其他二三ノ奨励ヲナス。（後略）

一月十一日　火　曇小雨　（前略）講堂司会、〈H・F・〉ウヅウォース氏日ト共ニ新ナル心アルベキヲハナス。

一月十二日　水　晴　（前略）土谷〈旗太郎〉氏ヨリ古文書ノ件ニツキ書面来ル、岩橋〈武夫〉生ヨリモ欠席ノ届出ル、病気ナリシ由ナリ。礼拝講話大岩〈元三郎〉氏消費者ヲ基礎トセヨトイフラスキン[26]ノ経済論ヲ略説アリ。

一月十三日　木　曇　（前略）講堂岸波〈常蔵〉氏注意ニ由テ平凡ナル中ヨリモ貴重ナル宝ヲ拾フコトアリト談ズ。

一月十四日　金　曇（前略）講堂、岡田生ノ番ナリシガ、欠席ニツキ〈C・J・L・〉ベーツ氏後ニアルモノヲ見ズ、前ニ在ルモノヲ見テ、進メトイフ趣意ニツイテ話ス。

一月十五日　土　曇　講堂ニテ〈W・J・M・〉クラッグ氏話ヲナス。午後女学院ニテ同院ト聯合ノ学生演説会アリシガ往カズ。（後略）

一月十六日　日　半晴　教会堀〈峰橘〉牧師五ノパン未ノ喩ニツキ倍加運動ノ奨励ヲナス。（後略）

一月十七日　月　半晴　講堂ニテ吉崎〈彦一〉氏黙示録ノ話ヲスル。（後略）

一月十八日　火　晴　（前略）講堂〈S・A・〉スチュアート氏モーセノ人物ニツイテ。

一月十九日　水　朝晴午後雨　午後二時ヨリ試験委員会アリテ往ク。例ノ詰ラヌ別ニ議スル必要モナイコト許リ。（中略）講堂ニテ〈S・A・〉スチュアート氏昨日ニツギテ洗礼ヨハネノ話ヲスル。

一月二十日　木　曇　講堂堀〈峰橘〉氏、午後三戸〈吉太郎〉[27]君カラ舌代ノ手紙ヲ貰ヒ台湾直輸入ノ烏龍茶ヲ献スルカラ三時カラ集ッテクレヨトイフコト。二時ノ帰リニ往テヨバレテ来ル、難船[28]ヲシタノガ三十年前ノ一月十九日デアッタコトヲ思出シテトイフコト。（注　神学部在校中四国伝道帰途ノ出来事ナリ）三時カラ文科教師会議デタ暮マデカヽル。（後略）

一月二十一日　金　午後曇　講堂ニテ江原〈隆二〉生司会、守屋生話ス。（後略）

一月二十二日　土　午後曇　（前略）講堂講話河上〈丈太郎〉氏、実力ヲ主トシ遊戯気分ヲ離レヨトイフコトヲ話ス。午後土谷〈旗太郎〉（重田〈富吾〉氏ハ往カズ）氏外三名ト阪神電車ニテ住吉ニ到リ吉田ノ古物ヲ見ル、光格天皇、当時大嘗会ノ記事、大和メグリ其他、正倉院、法隆寺等ノ宝物ヲ精写シタルモノ珍ラシ、舎利仏像等モアリ、関西学院講堂ニテ語学大会アリシガ往カズ。（中略）夜曽根〈保〉来訪、肺炎ノ由ニテ休養ヲ勧告ス。

一月二十三日　日　半晴　教会堀〈峰橘〉氏ノ話、後ニテ平賀〈耕吉〉氏洗礼ヲ受ク。支那宗教ノ講義追ハレタルタメ日曜ナレドモ書ク、此前ノ安息日モ。（後略）

一月二十四日　月　半晴　講堂デ岸波〈常蔵〉氏ノ話ガアッタ。（後略）

一月二十五日　火　曇　（前略）講堂ノ話〈H・F・〉ウヅウォース氏、午後神学部ヘ往ク、誰モ居ズ帰ル、金貰フコトヲ忘レタレバ又貰ヒニ行ク。

一月二十六日　水　曇　講堂ニテ〈W・J・M・〉クラッグ氏ノ話アリ、後ニテ欠席スベカラザルコト、学課ヲ受ケザルモノ、進級不可能ナルコトヲ話ス。（中略）午後総務会議アリシガ行ク能ハザリキ。

一月二十七日　木　半晴　講話〈C・J・L・〉ベーツ氏楽観ト題シテ長ク話ス。九時四十分ニ第二時ノ業始マル。

一月二十八日　金　雨　講堂、司会岩橋〈武夫〉、話岡田生□カナル人生観トイフ題。中学部ノ生徒雨ノ中ヲ侵シテ夢野ニ出デ発火演習ヲヤル。〈村上〉槙三モ其中ニ在ルノデ十二時部長ノ所ヘ叱リニ行ク。（註　病後二十五日始メテ出校セシバカリナリ）、ソレカラ様子見ニ出カケルト電車デ続々帰リ居ルノデ行違ヒニナッテハト城ヶ谷ヨリ引返ス。マダ帰ラントイフノデ又出カケテ終点ノコチラヲ帰リ居ルヲ見テ共ニ帰ル。下ニ毛糸ノシャツヲ着テ居タ、メ肌マデハ通ラズ、其ヨリ食事ヲシテ総務会ニ出ル。年会記録出版委員カラ記録代ノ催促来ル。記録ヲ送ラズニ金バカリ催促ハ大ニ迷惑、去年ハ明ニ払ウテ居ルノニ催促シテ来タ。彼等ノ事務ガ不整理デアルコトヲ証明スル。

一月二十九日　土　曇　寒サ身ニ染ム。講堂ニテ詩第一篇ヲ話ス。二年生奈良行トカニテ休ミタリ。午後剣道部ノ送別会アリ、招カレタルガ行カズ、寒ケシタルガ為ナリ。（後略）

一月三十日　日　曇　寒気強シ、時々雨雪ヲ降ラス、朝講話ヲハミル館ニテスル。我們ヲ試ニ合セズ悪ヨリ救出シ

タマヘトイフ題、頭ノ中クルクル廻ルヤウニテ話難シ、少シク感冒セシト見タリ。（後略）

一月三十一日　月　曇　講堂ノ話佐藤〈清〉氏、〈H・F・〉ウヅウォース氏ヲ訪ネ、四年論文ノコトヲ言渡スタメニ聞ク。矢張リ作ラストイフノデ其事ヲツゲテモラフ、試験ノ日割モ柴野〈秀夫〉氏ヨリ告ゲサス。桝田ノ本科生ニナッテ居ルコト誰モ知ラズ。池田〈多助〉氏ノ専断ト見エル。（中略）支那宗教要論上ノ稿ヲ了ル。

二月一日　火　晴午後曇　講話〈H・F・〉ウヅウォース、安藤〈兼吉〉氏年会記録ヲ持来リ一円五十銭呉レヨトイフ。今カラ記録ノ要モナイガ義務的ノモノナレバ取テ置ク。（後略）

二月三日　木　雪　（前略）講堂デハ〈J・C・C・〉ニュートンノ話ガアッタ。〈H・F・〉ウヅウォースカラ手紙ガ来テ文科教室ノ設計図ヲ見ニ行ク。〈C・J・L・〉ベーツノ所ヘ往テ大講堂ノモ見タ。（後略）

二月四日　金　午後クモル、冷気強シ。講堂、木村〈禎橘〉ノ司会、栗秋ノ話、学生ノ話ニハ時ニイカン奴ガアル。（後略）

二月五日　土　晴　空晴レタレドモ野外ハ風吹キ冷気強シ、講堂ノ話ハ河上〈丈太郎〉氏。（後略）

二月六日　日　晴時々雪　（前略）日記ニ書カヌ日ハ雑務ノ多クテ忙ガシイ日デアルコトヲ忘レテハナラヌ、尤モ他人ノ上ハ知ラズ。

二月七日　月　曇　講堂岸波〈常蔵〉氏ノ話アリ。（後略）

二月八日　火　晴時々曇　講堂ノ話〈H・F・〉ウヅウォース氏、四年試験ノ有無教師ニ尋ネタル上時間割ヲ書キ示スベキコトヲ柴野〈秀夫〉氏ニ告グ。二十四日ハ成ルベク試験ナシニシテ。（後略）

二月九日　水　曇　講堂ノ話〈イアン・〉オゾリン氏。教師ノ問題ヲ請ヒテ印刷スルモノハ印刷スベキコトヲ柴野〈秀夫〉氏ニ話ス、記事他二ナシ。

二月十日　木　半晴　日野原〈善輔〉氏講堂ニ来テ話ス。午後教師会議アリテ往クト商科四年ガ試験ヲ延シテクレヨ、前ニ二週間ノ休ヲクレヨ、試験科目ヲ減シテクレヨト頼ンダノガ議題トナルサヘ馬鹿ラシイニ成ベク其ヲ許シテヤラネバトイフ腹ガアルノデ、五分間デ済ム会議ガ例ノ如ク日暮マデカヽル、ソレニモ少シ明ルイカラ如何ニシテチャペルニ人ヲ出スヤウニセウカトイフノデ、取止メモナイ感話ナドガ始ルカラ帰ッテ来タ。暗ウナルマデヤルノデハ困ル。

二月十一日　金　雨　祝賀式八時半ヨリアリ。〈M・M・〉ホアイチング聖書、吉岡〈美国〉勅語、林ノハナシ、

松本〈益吉〉祝祷。（後略）

二月十二日　土　曇後晴　講話河上〈丈太郎〉氏、英文科二年出席者ナシ、〈H・F・〉ウヅウォース休講ノ為ナラン、四年ニ試験ノ時間割ヲ知ラスヤウニ命ズ。（後略）

二月十四日　月　晴　講話〈H・W・〉アウターブリッヂ氏。試験（卒業）時間割ノ通知済ム。（後略）

二月十五日　火　晴　日本基督教会[29]牧師馬場久成トイフ人来リ講堂ノ話ヲスル。曽根〈保〉ニ肺養生法ヲ貸ス、熱ガアルガ試験マデ出タイトイフノデ忠告ヲスル、教師ノ間ニハ彼ノ病気ヲ信ゼザルモノモアリトイフノモ一ハ彼ノ態度悪キ故ナレバ困ッタモノナリ。（後略）

二月十六日　水　雨　講話〈W・J・M・〉クラッグ氏。社会科三年ノモノヨリ四年ニ於テ学習スベキ希望ノ学科ヲ書イテ来ル。（中略）黒住教ノ講義ヲ書ク。

二月十七日　木　晴　冷気強シ、講話ヲ米澤氏ニ頼ミタル由、先日堀〈峰橘〉氏ノ手紙ニ見エタレドモ来ラズ、〈イアン・〉オゾリン氏ニ話シテ貰フ。（後略）

二月十八日　金　晴　今日モ冷シ、始メテ厚キ氷ヲ見ル。講堂、小山司会、寿岳〈文章〉ノ話、平生ノ教師ノ話ヨリ思想モアリ、態度モ話方モスベテヨカリキ、殉教者ノ精神ヲ称エタルモノナリ。（後略）

二月十九日　土　曇　講話〈C・J・L・〉ベーツ氏一年生ノ希望学科ヲ聴クト英文科ヘ八人、哲学科ヘ八人、社会学科ヘ七人ノ答ヲ得ル。哲学ハ意外デアッタガ、是デ面白クナッタ。（後略）

二月二十一日　月　晴　（前略）講話〈J・C・C・〉ニュートン氏ノ所咽喉病ニテ話サレズトノ事ニツキ余祈祷ノ事ニ就キ話ス。（後略）

二月二十二日　火　晴　講堂ニテ〈J・C・C・〉ニュートン氏話ス、午後広文庫ヲ借来リテ抄写ス。

二月二十三日　水　曇午後少雨　講話〈H・F・〉ウヅウォース氏、午後神学生居ラズ。キーツノ記念会[30]アリ、上坂(ママ)〈上阪泰次〉氏英語ノ論文ヲ読ミ、次ニ志賀〈勝〉ノ話ト佐藤〈清〉氏ノ話アリ。二時ヨリ五時過マデ腰掛ケテ居テ頭痛ム。其ヨリ栄町杏香楼ニ往キテ支那料理ノ会食、〈H・F・〉ウヅウォース氏ト共ニ返(ママ)ル。

二月二十四日　木　朝晴午後少雨　講話米沢牧師ノ筈ナリシガ来ラザルヨリ代リテ話ス。（中略）桝田ノ論文ヲ庶務ニ返ス。

二月二十五日　金　晴　講話八田〈昇岳〉、司会大塩〈彦治郎〉、一年ノ作文今日ニテ止ム。午後総務会日暮マデカヽル。切売聴講生ノ問題出デタレドモ反対シ置ク。〈H・F・〉

ウヅウォースカラ柴野〈秀夫〉ニ一年ノ何カラ教ヘサセタイトイフ相談出デ是モ反対スル（中略）川田〈啓一〉ノ論文ヲ受取ル。総務部ニテ金受取ル。

二月二十六日　土　晴　講話河上〈丈太郎〉氏、商科ニハ卒業生日トテ騒グ。入学願書ノ受付ヲ小沢〈濵〉氏ニ談判シテ一緒ニ扱ウテ貰フヤウニスル。広島県人ノ写真ヲ撮ル。（後略）

二月二十八日　月　半晴　講話吉崎〈彦一〉氏、午後二時ヨリ高商裏カラ新道ヲヌケテ熊内ニ出デ、摩耶山道ノ辺マデ遊ビ、帰路松浦医院出張所ニ至リ左側ノ鼻茸ヲ切リテ帰ル、料金等九円五十銭。

三月一日　火　曇　学院ヲ休ミ静養。（後略）

三月二日　水　小雨　学院ヲ休ム、午後松浦〈医院〉ニ往キ右ノ鼻茸ヲ切ル。（後略）

三月三日　木　晴　学院ヲ休ム、午後四季会アリタル筈ナルガソレニモ往カズ。（後略）

三月四日　金　晴　今日ヨリ登校ス、講堂木村生、午後神学部業ナシ、松浦〈医院〉ニ往キ鼻ノ綿ヲ取リテ洗フ、是ニテ一応終了、口ヲ閉ヂテ息スルコトノ出来ルノハ生レテ初テ。（後略）

三月五日　土　晴　講話岸波〈常蔵〉氏。（後略）

三月七日　月　晴　講話〈W・K・〉マシウ〈ス〉氏、午後理髪、三時ヨリ教師会議、日暮ニ帰ル。来年ノ受持ト卒業生ノコトヲキメル、其間タ寒ケシテ風引キタリト見エ、食後熱七度八分アリ直ニ寝ル。（後略）

三月八日　火　晴　講話〈H・F・〉ウヅウォース氏、午後発熱シ八度四分ニ及ブ、寝ニ就ク、教授会ニ欠席ス。（後略）

三月九日　水　晴　朝熱六度四分ナリシガ験温器ノ損ジタルタメニテ実ハ不明、青谷ニ出デ布引ニ廻リテ帰リ、其ヨリ学院ニ往キ帰リテ〈村上〉謙介ニ送ル手紙ヲ書キ、午後篠原ヘ往キ下ノ市場ヲ見テ帰ル。少シ快キヤウナリシガ再ビ〈村上〉謙介ニ送ル手紙ヲ書ク其終ニ鼻血出デタリ直ニ止ム、サレドモ頭痛キヲ以テ横ニナリシガ暫クスルト本物ノ鼻出血トナル、塩水モ何モ止メル力ナク。（後略）［以下死生ノ境ニ彷徨ス］

三月十八日　金　晴　（前略）午後柴野〈秀夫〉氏来訪、主要ノ件ヲ話ス。（後略）

三月二十日　日　雨　朝川田生訪来、（中略）後大岩〈元三郎〉氏暇乞ニ見ユ、其後堀〈峰橘〉氏来訪。軍艦ヨリ礼砲ヲ放ツ。社会科二年ノ学生数名来訪、今日寝タリ起タリシテ床ニ就カズ。午後二時半ヨリ卒業説教アリ、皆々往ク、

留守番スル。神戸市五十年紀年ノ第一日ニシテ。（後略）

三月二十一日　月　晴　午前九時卒業式、往ク、讃美三十六、聖書、祈祷、勅語、君ヶ代、証書授与（中学部二十八回、百十四名）（商科六回、百十五名）（文科四回、四名）神学本科（二十回、二名）、院長告辞、ソレカラ独唱、有吉〈忠一〉知事[31]、告辞（トハ何カ）、祝辞、答辞、頌歌、祝祷トアッタ筈ジャガ見残シテ帰ル。（後略）

三月二十四日　木　晴　（前略）午後ハミル館ニ至リ成績表ノ手伝ヲシ。（後略）

三月二十五日　金　雨　午前総務部ニ行キ金受取リ、午後柴野〈秀夫〉氏ト共ニ佐藤〈清〉氏ヲ訪ヒ成績表ノコトヲ定メテカヘル。

三月二十六日　土　曇小雨　九時カラト聞イテ居タガ昨日二時カラトイフ回章ヲ送ッタカラ緩リシテ居ルト来テクレヨトイフ。其カラ人ヲ方々ニ走ラセタリシテ、教師ヲ呼集メタリシテ文科ノ下相談、午後二時カラノ奴ハ何如デモヨイト思ウテ居ルト、畑ガ来テ一度ヤルトイウタ点ヲ又ヤラヌトグズッタノデ、本会議デヤリ直ス必要ガ出来テ往クト、商科ノ支度ガ出来ンノデ四時頃ニナッテ漸ク会ガ始ル。其後発表ノ掲示ヲ張ッテ帰ルト、夜五島ガヤッテ来テ平均点ハマダ多カラウデ落第デハアルマイトイフ、調ベテ見ルト果シテ然リ、柴野〈秀夫〉ガ間違ヘテ居ッタノヂャ。

三月二十七日　日　曇　昨日疲労ノ結果神経衰弱起リ、終夜不眠、今日教会ヲ休ム、何処ヘモ出ズ。（後略）

三月二十八日　月　曇　堀〈峰橘〉、松本〈益吉〉ヲ訪ス松本〈益吉〉不在、堀〈峰橘〉氏ト暫ク会談、畑〈歓三〉氏ニ逢ウテ泉太郎ノ話ヲスル、柴野〈秀夫〉氏ニ教科書掲記ノ事、押上学生ノ呼出時日、問定メノ件等ヲ談ス。（後略）

三月二十九日　火　晴　（前略）午前神戸新聞記者澤田猛トイフガ来リ、昨夜商科学生ガ硝子ヲ破ッタリ乱暴シタ次第ヲ聞カセテクレトイウタノデ吃驚、一寸モ知ラナンダトイヒ、記者ハ他家ノ方ヘ往カセタガ、様子ガ知リタイノデ、畑〈歓三〉・松本〈益吉〉ヲ尋ネテ不在、ソレデ商科ノ方ヘ廻リテ見ルト成程硝子トイフ硝子ハ殆ド壊レ、頻ニ嵌改ヲヤッテ居タ。午後又散歩ノ序ニ堀〈峰橘〉ヲ尋ネタガ是モ不在、然シ畑〈歓三〉氏ニ出逢ウテヨク分ッタ。学生カラモ一寸聞イタガヨク聞エナンダ。

三月三十日　水　晴　商科ノ騒動新聞ニ出ル[32]、〈村上〉楨三ヲ買ニヤル。午後校内ヲ通リテ見レバ落第生所々ニ寄々シテヨキ音ヲマツガ如シ。（後略）

【注】

（1）小野善太郎については、「村上博輔日記抄」十　注（157）を参照のこと。（『関西学院史紀要』第十七号、二二九頁）。一九二〇年四月に関西学院教会から甲府教会に転じている。『関西学院教会80年史』（関西学院教会、二〇〇〇年）三一頁。

（2）一九二〇年の年会において小野善太郎牧師の後任として堀峰橘が関西学院礼拝主事、関西学院教会牧師に任命された。しかし在職一年で神戸東部教会牧師に任命され、同時に近畿部長になった。前掲書『関西学院教会80年史』三一頁。

（3）学院史編纂室蔵「高等学部教授会記録」（第八十九回職員会議、大正九年二月九日）に「入学申込期限四月五日限り、入学試験四月八日及び九日（午前八時ヨリ）、人物試験四月拾日（午前八時ヨリ）、入学試験成績発表四月拾弐日」とある。

（4）前掲書『関西学院教会80年史』の「80年間の主日礼拝の記録」欄には、説教題「与フル生活」とある（二二八頁）。

（5）赤沢元造による「大成運動旅行記」なる記事によると「五月第一日曜朝は関西学院教会に招かれ又其週中数回に中学部。高等学部神学部等を歴訪し祈祷会又はチャペルに大成運動の概要を語る機会を与へられ申候、近来学院生徒間に堅実なる宗教的気分の興起しつゝあるは感謝すべき事に有之候先日小弟の出席せる中学部の祈祷会は毎週月曜朝七時半よりの集会なるに百余名の出席者而も多数の通学生是に加はれるは著しき事と存候大成運動も学生間に知られ彼等を動かすの要大に有之候。」とある（『教界時報千五百号、大正九年六月一八日』）。

（6）前掲「高等学部教授会記録」（第九十五回職員会議、大正九年五月七日）に「高等学部ニ於ケル教授制度ヲ単位制トスル件」が議事としてあり、「委嘱セラレタル畑氏、河上氏、菊地氏ヨリ提出セラレタル単位制ノplanニ就キ審議ニ入ル。先ヅ畑委員ノ説明アリ。次ニ□plan、principleヲ是認スル動議出デ、可決ス。更ニ審議ノ結果、尚ホ授業時間ヲ減じelective courseヲ定メ其他ノ審議ヲナスタメ□planヲ委員ニ於テ再訂スル動議出デ、可決ス」とある。

（7）日本最初の学生対抗戦とされる「早大・関西学院対抗陸上競技会」『関西学院大学陸上競技部七十年史』（一九八八年）二〇頁。

（8）『商光』第八号（一九二〇年）に、「岡山遠征記（五月二十三日）　先輩の御ご尽力と大阪毎日岡山通信部の丁重な奔走によりて岡山遠征の計画は成就せうれ（ママ）た。岡山の軍備は十分出来て居る様に見えた、前日着岡して直ちに岡山医専のコートに行つて練習した。皆思ひ通りの當り具合であつた。練習終つて宿に引き上げ愈々

戦闘準備湯上り姿の連中が亘に頭を傾けて充分の用意が出来て終た。翌二十二日は岡山医専と対戦し二十三日は第六高等学校棄権の為め全岡山軍と戦ふ。実葉(ママ)団としては山陽一と云つて居る。」とある（二一〇頁）。

（9）弁論部の懸賞雄弁大会については、『関西学院高等商業学部二十年史』（一九三一年）に、「従来の九年五月第一回院内懸賞雄弁大会を開催した。第一等は村井藤十郎、第二等は木村巳之吉（文科）、第三等は前川清の占むる所となった。爾来この弁論大会が講演部の登竜門となり部員の地を沸き立たせたものである。」とある（七七頁）。

（10）ハミル館について『関西学院教会五十年史』（一九六六年）に次のような記述がある。「大正八年（一九一九）二月の教会四季会に於いて、教会は日曜礼拝をハミル館で行うことを決定した。詳しい事情は不明であるが、一時ハミル館で日曜礼拝が行われ、其の後神学部礼拝堂に移され、更に大正一〇年（一九二一）に落成した中央講堂で守られるようになったのは松本牧師の時代であった。元の礼拝堂は関西学院図書館となった」（一九～二〇頁）。

（11）シカゴ大学との試合について『高等商業学部二十年史』（一九三一年）に記述がある。「六月二日五年振りで来朝した強剛シカゴ大学と戦ひ六対四の大肉迫戦を演じ、シ軍の人気者カーチス氏をして日本に早慶両チーム以外に今一つ関西学院ありの讃嘆の辞を発せしめた。当日の学院の成績は実に優秀なるものがあり、当時の新聞に掲載されたる市軍と対戦せし五校の成績表では、早大、関学、帝大、慶大、法大の順位で、学院は第二位を占めたものであつた。このシカゴ戦は関西で始めての入場料を取つた試合に拘らず大観衆が殺到したと云ふから当時の学院チームの人気の程が知られる」（八五頁）。

（12）伊那郡松尾小学校とは、現在の飯田市立松尾小学校で明治五年創立、百四十周年を迎える。柳田静雄は、大正五年三月三一日より大正一〇年三月三一日まで訓導として在籍している（松尾小学校調べ）。

（13）一八九七（明治三〇）年頃に同好の士によって剣道が始められ、剣道部としての活動が始められた一九一二年を創部年として、今年、創部百周年を迎える。大正六年学生会運動部に加入、小沢部長就任（～大正一〇）、その前一九一五年に師範に迎えられた高橋赳太郎引率により一九二〇年七月に行われた満州朝鮮遠征について、『関西学院大学剣道部七十五年誌』（関西学院大学剣道部雄華会、一九八六年）に次のように記載されている。

「さて高等学部は、創部以来破天荒の壮挙ともいうべき

満州・朝鮮遠征を決行している。
一行は、この年就任された村上博輔部長・高橋赳太郎師範引率のもとに、西多主将以下、村井、石本・織田・山口・脇田・中尾・網谷・平群（木下）そして坪田である。約一ヶ月に亘る遠征であったが、満鉄軍その他の競合チームと対戦し、四勝一引き分けの好成績を残している。しかし、試合よりも稽古を中心にしたようであり、室谷山水氏（現在兵庫県学生剣道連盟会長）の話では、朝鮮ではあまり稽古はしなかったらしい。各地での稽古と試合のほか、社会見学的要素も多く含まれており、よき人生経験になったようである。
ただ、この遠征中に、坪田寿男選手が病を得て奉天に客死するという痛恨事が出来している。中学部以来活躍を続け、注目されてきた坪田の死は惜しみてあまりある。
なお、剣道部歌「長白山頭」は、この満州・朝鮮遠征に取材し、帰国後間もなくグリークラブの主将でもあった佐治三男が作詩・作曲したものである。雄壮な中にも寂寥と哀感の調べが漂うのも充分首肯できる。
この満州・朝鮮遠征については、編纂委員の奥谷勝彦氏が遠征に参加された網谷市三郎氏に取材インタビューをしているので、その概要だけをここに紹介しておく。
なお、詳細については、「満州・朝鮮遠征について――網谷先輩にきく――」を参照していただけると幸甚である。
大正九年七月二十五日頃に出発して、約一ヶ月後の八月二十日頃に帰神したようである（六月三十日出発、七月下旬帰神説もある）。大連・神戸間直行の定期便で、三日位かかった。費用は満鉄が全額を出し、学生たちは小遣い銭として、当時のお金で三十円程もっていった。
大連に連（ママ）くと、満鉄剣道部の人達が、「剣道範士高橋先生歓迎」という旗をもって出迎え、それはけっして「関西学院剣道部歓迎」というものではなかったらしく、高橋先生についてきた学生さんというのが実情だったらしい。満州や満鉄の宣伝効果を狙ったようである。
さて、満鉄の剣道部の印象について、網谷氏は、
「／満鉄で剣道をやっているような人は、帝大を出たような満鉄の幹部や旧制高校で鳴らした人を除けば、三段程度であった。奉天で試合をやった時、うちの方が強いと思っていたが、大将決戦にまで持ち込まれまして、大将が満鉄の部長さんだったので、こちらがいくら打っても、審判がとってくれなくて、引き分けになってしまった。／」
と述べられ、強さについては、満鉄本社が大連にあったので、やはり大連が一番強く、他はそれほどでもなかったとも言われる。剣風については、足払いをして倒れたところを攻撃してきて、「面あり、一本」という

感じで、実戦本位の稽古だったらしい。

約一ヶ月間の生活は、村上先生がクリスチャンであったせいか、禁酒禁煙であった。ただ一度だけ、歓迎会の席で満鉄側が怒り出したので、村上先生が御祈りをして、神に謝罪して、「学校の名誉に関する場合ならば、いくらでも飲む。」といって、満鉄の酒豪二、三人を相手に大盃で飲み乾し、相手の方がびっくりしてしまったということである。ところが、網谷氏が後に村上先生にお聴きすると、先生が入信するきっかけになったのは、酒の上での失敗が原因だったからだそうで、「酒の飲み合いやったら、負けへんで。」とおっしゃって、大笑いしたそうである。

大連や奉天以外では、鞍山の製鉄所や撫順の炭坑など、当時満鉄が誇りとする各事業の一端を見学して廻るといった具合で、社会見学と稽古・試合の半々といったものであった。満州に二十日程、朝鮮では鴨緑江と京城へ行ったが、ちょうど夏休みだったし、専門学校以上の学校も多く、殆んど稽古はしなかったようである。坪田選手の悲運な事故があったものの、剣道部の活動は愈々盛況を呈し、十一月には三高と戦い、不戦者二名を残し、快勝している。そして十一月二十日には、故坪田寿男追悼の剣道大会が神戸の武徳殿で行なわれた。」（三一～三二頁）。

（14）満州・関東州に一九〇九年創立された高等専門学校。のちの旅順工科大学で、一九四五年にソ連軍に接収されて廃校となった。建物は現在、海軍四〇六病院として使われている。（『満鉄四十年史』財団法人満鉄会、二〇〇七年、七三頁）。

（15）満州・奉天に一九一一年創立された高等専門学校。一九二二年に五年制（予科一年、本科四年）の満州医科大学に昇格し、それは日本の大学令（一九一八年発布）に基づく満州における最高学府の成立であった。（前掲書『満鉄四十年史』、七三頁）。

（16）第六回全国野球選手権大会兵庫予選の第一回戦で、御影師範に二十二対〇、五回コールドゲームで勝利。その後、甲陽中学との二回戦（一〇対〇、六回コールド、沢昇投手がノーヒットノーランを記録、八月一日）、神戸商業との準決勝（四対一、八月二日）と勝ち進み、神港商業との決勝（八月三日）は八対二で勝利して全国大会に出場した。全国大会は八月一四～一九日に鳴尾球場で開催され、一九日念願の全国制覇を果たしている。『関西学院野球部１００年史』（関西学院公式野球部ＯＢ会、一九九九年）。

以上のエピソードは、米田満「関西学院体育スポーツ抄史２」に触れられている。（『関西学院史紀要』第五号、一九九六年、五二～五三頁）。

(17) 前項に続いて「剣道部の満鮮遠征と坪田寿男の死」が触れられている。前掲書『関西学院史紀要』（第五号、五三～五五頁）。

(18) Elizabeth Barret Browning（1806-61）。イギリス後期ロマン派の詩人である。

(19) 前掲書『商光』第八号（一九二〇年）に、「対北米シヤトルミカド倶楽部　一対四敗　九月二十二日美首（ママ）登軍来り学院校庭に於て仕合を行ふ美軍はプレートに怪投手マツキーを立て、必勝を期したり彼マツキーなるもの元来はパシフイツクコーストリーグ中の投手なればとても野球以外の日課を有する学生チームたる我々のノツクアフト（ママ）する底の事は思いもよらず我軍怪投手の為に打撃を封ぜられて遂に成すなく来らん日に北米のシヤトルに於て此の憾をむくいんと誓へり」とある（二〇五～二〇六頁）。

(20) 阪神電車の事故について『大阪朝日新聞』（大正九年一〇月一日付）の見出しは以下の通り。「阪神電車の大衝突　青木停留場の大惨事　死者三名重軽傷者二十九名　曲線のところを全速力で駛走して　停車せる前の車にブッツかる　血流れ肉塊散乱す」。軽傷者の欄に「精道村打出関西学院生徒内藤憲隆（二十三年）」の名がある。平松の名はない。

(21) 『開校四十年記念関西学院史』（一九二九年）に、「大正九年ニュートン院長退職に際し、全学院学生及び同窓生等は、互いに醵金して、カナダの肖像画の大家にして後日本に於て開催せられし、世界日曜学校大会の際、大会の嘱により、畏くも大正天皇の尊影をものして、之を献上せしゼー・ダブリユー・エル・フオスター氏に係頼し、肖像画一面をつくりて、之を学院に掲げ、永久に記念する事となしき。」とある（一九〇頁）。現在この肖像画は、大学図書館地階の図書館ホールロビーに掲げられている。

(22) 前掲書『商光』第八号（一九二〇年）に、「十五日、教授ベーツ博士新にニュートン博士の後を承けて院長に、松本益吉博士副院長に就任せらるるにつき就任式を行ふ。」とある（一九七頁）。

(23) カナダメソジスト教会総理のS・D・チャウン博士のことで、十月五日から十日間、東京で開催された第八回世界日曜学校大会に出席のため来日している。その後各地を訪問しており、関西学院にも訪れたのであろう。

(24) H・W・アウターブリッジのこと。

(25) 社会学者の高田保馬が大正八～九年に集中講義をしている。『関西学院大学社会学部三十年史』（一九九五年）に記述がある。「『社会学原理』を出版し、広島高等師範学校に就任したばかりの高田保馬教授にお願いして、集中講義をしてもらった。これが大正八年と九年の二

ケ年間にわたって続けられた。これによって学生達の社会学への「乾き」は、一応、癒され、学生たちの不満も治まった。このことを考えると実質的には大正八年の高田博士の講義とともに関学社会学科が動き出したといえるであろう。さらに河上〈丈太郎〉教授はこの好機を捉えて、神戸市青年会館において高田―河上両氏の公開講演会を催している」（一三頁）。

（26）ジョン・ラスキン（一八一九―一九〇〇）の『この後の者にも』（一八六〇）のことで、古典派経済学批判をしている。

（27）『関西学院史紀要』本号「関西学院の人びと」（一四九～一五七頁）参照。

（28）難船事故についての逸話が、『神学評論』（関西学院神学部、昭和九年十月二十五日）の尾崎和夫「人としての三戸吉太郎先生」に次のように記されている。「関西学院神学生時代の逸話が残ってゐる。当時、先生は多度津傳道のため毎月神戸から出張してゐられた。明治二十四年一月十九日のことである。いつもの如く多度津の集会を終え佐波川丸といふ大阪商船の汽船に集つて神戸へ帰られる海上で、他の汽船と衝突し、あつと思ふ間に先生の船の方には浸水し初めた。乗客はもとより船中は忽ち混乱に陥り救助を求める悲鳴やら泣き声やらが交錯した。先生も甲板に飛出されて一度はボートを下さんものと携へ持たれし海軍ナイフでボートを縛いであった縄を切らうとせられたが、容易に断てなかつたのでそれも諦め思案してゐられたところ。恰度、そこへ衝突した相手の船（それは大きかつたためか損害も少なかった）がすれすれに近寄って来た。甲板の上の乗客がその方に一時にどつと集ったから舷は傾いた、折もおり、先生の立つて居られた場所が舷の傾斜のため先方の舷の舷門にすれ合ふほどに接近したので、先生は文字通り渡りに船と一物も濡さないで向ふの船に飛び移られた。それからは残して来られた人達の救助に懸命に尽された。難破の瞬間先生は託つた金と母堂の手縫ひの着物とは持つて遁れたいと思はれたが。それも遂に思ひ切られた。然し聖書だけは手から離されなかつた。先生が海中から助け上げられた人のうちに日蓮宗の僧侶があつて、その人に先生は自分の着物を脱いで与へられた、その先生の親切を僧侶は深く徳として、その後書面の往復が永く続けられてゐたとのことである」（七〇頁）。

（29）『基督教年鑑』（大正十年版）に日本基督神戸教会（神戸市中山手通七丁目一〇）馬場久成とある（七六頁）。現在の神戸再度筋教会である。

（30）前掲書『開校四十年記念関西学院史』付録の年表に、「廿三日英文学会キーツ記念講演会」とある。

（31）『基督教世界』（一九五〇号、一九二一年三月二四日）に、「神戸関西学院卒業式　去る二十火午後二時半より学年末礼拝式二十一日午前九時より第三十一回卒業式挙行前者には近藤良薫氏の説教後者には兵庫県知事有吉忠一氏の講演ありたる由」とある。

（32）「関高商科生騒擾す」という見出しで、生徒六百に対し百七十一名の落第者をだしたことに抗議する学生の暴行事件があった。「廿八日夜時頃市内原田村私立関西学院高等部商科の学生約百九十名が学年試験成績発表に関し学校当局の態度を不満なりとし大挙騒擾、商科各教室の窓硝子を微塵破砕し猶喧騒を極めんとしつゝある旨同校請願巡査の急報に接し所轄御影署から警官数名現場に急行、辛く殺気立つた学生一同を鎮撫するに至つた事件がある」とある（『神戸新聞』大正十年三月三〇日付）。

本資料の翻刻には、元本学大学院文学研究科大学院生の山下真弘さん、永野啓子さん、元大学図書館職員の井戸田史子さんの多大なる協力を得ました。また、飯田市立松尾小学校の山﨑嘉英教頭先生には、柳田静雄先生についての調査をお願いしました。ハングル文字の解読については、本学経済学部の厳延美教授のお世話になりました。記して謝意を表します。

（川崎啓一、高木久留美、井上琢智）